

Annual Report 2014

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学
看護教育研修センター

年報 2014

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 7

認定看護師教育課程 9

看護キャリア開発事業 13

研究支援事業 14

スキルズラボ事業 29

通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座 36

研究活動 39

資料 45

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

遠藤俊子

「京都橘大学看護教育研修センター」は、2007年度に認定看護師教育課程設置から出発をし、2014年12月には<皮膚・排泄ケア分野>8期生の修了生を送り出すことになりました。

本センターの目的は、「看護職者の専門性を高め、その実践能力を向上させるための教育研修を行い、地域に貢献する看護職者を育成する」とあります。

その達成のために、認定看護師教育、看護師等専門職者の継続教育、看護研修プログラムの研究開発、看護教育充実のための基礎的・実践的教育、その他看護教育研修センターで企画するプログラムが主たる事業となります。

2013年8月に発表された社会保障制度国民会議報告書に「21世紀（2025年）日本モデル」の提示とともに、医療・介護分野の改革として、高齢化の進展により、疾病構造の変化を通じ、必要とされる医療の内容は「病院完結型」から、地域全体で直し、支える「地域完結型」に変わらざるを得ないと報告されています。これからの看護の提供は、あらゆる場にいる看護を必要としている人に看護を届け、地域で健康依存度がある程度高い人も含めて支援する医療を作り上げていくこととなります。そのために、一人ひとりの看護職者ができるだけ多様な働き方を通じて働き続けることも必要となります。

このような社会的な動向を把握しながら、本学の理念に沿いながら、看護職者の生涯学習の場を提供するには、看護研修プログラムの内容と共に、時代の要請に応じたテーマに取り組む必要があります。

2014年度は看護学部、大学院看護学研究科も充実し、新たに看護学教育・研究者も増え、大学における地域貢献の方針もより明確になってまいりました。京滋地域における看護系学部を擁する大学として、また総合大学の中にある大学の強みを活かした「人によりそう看護を創造し実践できる」の学びが生涯できるセンターとして、使っていただける機関でありたいと願っております。

ここに、2014年度の年報をお届け致します。何卒、忌憚のないご意見などいただけたら幸甚に存じます。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については継続審議となる
2013年度 4月 25日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認

開催時期	内 容
2013年度 12月 19日	2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改定内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日 12月 9日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認 2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会	
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会	
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会	
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会	
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会	
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会	
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会	
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会	
2013年	1月	16日	第9回看護キャリア開発委員会
	2月	19日	第10回看護キャリア開発委員会
	3月	19日	第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会	
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会	
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会	
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会	
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会	
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会	
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会	
2014年	1月	22日	第8回看護キャリア開発委員会

2014年年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会	
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会	
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会	
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会	
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会	
2015年	1月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
	3月	5日	第7回看護キャリア開発委員会

組織

2014年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

遠藤 俊子	京都橘大学看護教育研修センター	所長（京都橘大学看護学部長）
判澤 恵	京都橘大学看護教育研修センター	准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
宇野 育江	京都橘大学看護教育研修センター	講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
沼本 教子	京都橘大学看護学部看護学科	教授
阿部 祝子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
竹下 夏美	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
小野塚 元子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

看護キャリア開発委員会

遠藤 俊子	京都橘大学看護教育研修センター	所長（京都橘大学看護学部長）
阿部 祝子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授（看護キャリア開発委員会 委員長）
河原 宣子	京都橘大学看護学部看護学科	教授（看護学科主任）
野村 陽子	京都橘大学看護学部看護学科	教授
梶谷 佳子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
片山 由加里	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
植村 由美子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
奥野 信行	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
島本 行雄	京都橘大学看護学部看護学科	助手
角地 直子	京都橘大学看護学部看護学科	助手
鈴木 久義	京都橘大学看護学部看護学科	助手
平井 亮	京都橘大学看護学部看護学科	助手

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程研修について

2014年度認定看護師教育課程<皮膚・排泄ケア分野>では、2.1倍の受験倍率を経た研修生30名が入学予定であったが、開講直前に1名から自己都合で辞退の申し出があったため最終的に29名が入学した。本課程は5月19日に始まり12月16日を以って予定通りに研修を終えた。今回科目修了試験、臨地実習とも全員が何とか無事に終了した。しかし、修了試験において不合格者が1名発生し最終的に28名の修了となった。不合格者は基礎知識において不足があったために基本的な問題の解釈ができなかった。本人に説明し納得している。

2. 入学説明会実施

入学希望者の要望に基づき初めての入学説明会を開催した。研修の全体像の案内と入学希望者増を図ることを目的とし、研修期間中の7月に開催した。研修の実際と教育環境の照覧に重点を置いた計画は有意義だったと考えられた。参加者は31名でその内3分の2以上が、2015年度の受験に応募してくれた。2015年度の入学試験において現時点で合格者決定後の辞退申し出はない。これは入学説明会の効果でもあると評価している。

3. 隔年開催フォローアップセミナーについて

第4回京都橋大学看護教育研修センター修了生対象のフォローアップセミナーを、キャンパスプラザ京都において2015年1月24日（土）に開催した。近年排泄ケア領域において開設が期待される「WOCが行う排泄ケア外来」をテーマとして、排泄ケア外来運営と実施に関連する医療者によるシンポジウムをメインにした。また実践教育として、がん専門看護師からWOC領域の専門的な関わりについて講演を頂いた。参加者は約150名で内7割が修了生、そ

の他は実習協力施設や関西圏内の皮膚・排泄ケア認定看護師であった。終了後のアンケートでは平均9割の参加者が有意義だったとの評価であった。

4. 教員による研究について（京都橋大学倫理審査承認を得た）

研修期間中任意参加の研修生の協力を得て、排尿モデル（仮）を用いたオムツ装着技術の研究を実施した。結果としてモデルを用いた技術演習は、おむつ装着時の配慮点やもれの原因を視覚的に認識できたことは有意義である。今後関連学会で発表予定である。

5. フォローアップ研修について

2014年度修了生（第8期生）の認定審査（2015年5月）に向けて、フォローアップを実施予定（2月、3月、4月）である。研修終了が12月であったため、認定審査まで確実な知識習得とモチベーションを維持し全員の認定審査合格を目指すことを目的としている。

6. 教員の専門領域の活動

【判澤 恵】

- 1) 宇野教員と共同で上記4.の研究活動を行った。
- 2) 以下の関連学術集會に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集會
 - ②第11回日本フットケア学会＋第5回日本下肢救済・足病学会合同学術集會
 - ③第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（査読委員・評議委員）
 - ④第16回日本褥瘡学会学術集會（研修生も研修の一環として全員参加）

評議委員及び日本褥瘡学会危機管理ネットワーク近畿褥瘡地方会京都府危機管理連絡委員拝命

- 3) 皮膚・排泄ケア認定看護師、一般看護師対象の企業セミナーにて「WOC領域の実践で感じた知識とスキル」について講演
- 4) 介護職員・一般看護師対象の企業セミナーにて「臀部に疾患を有する場合のスキンケア」について講演

【宇野 育江】

- 1) 1回目認定更新審査を受験し合格した。
- 2) 判澤教員と共同で上記4.の研究活動を行った。
- 3) 以下の関連学術集會に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

- ①第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集會
- ②第11回日本フットケア学会+第5回日本下肢救済・足病学会合同学術集會
- ③第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会
- ④第16回日本褥瘡学会学術集會（研修生も研修の一環として全員参加）
- ⑤第21回日本排尿機能学会
- ⑥第27回日本老年泌尿器科学会
- 4) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 京都滋賀ブロック ストーマリハビリテーション講習会実行委員
- 5) 日本コンチネンス協会 電話相談員として適時電話相談に対応した。

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア分野 認定看護師 判澤 恵

看護キャリア開発事業

■看護研究支援事業 14

1. ベーシックコース 14
2. プラクティスコース 26
3. 院内研究指導者コース 27

■スキルズラボ事業 29

1. スキルズラボ事業活動報告 29
2. 評価 30
3. 今後の課題 32

■通信教育課程

- 看護学コース学修レポート作成サポート講座 36

看護キャリア開発事業

■看護研究支援事業

1. ベーシックコース

ベーシックコースは、看護研究に取り組む初心者向けのコースとして2012年度から開催しており、今年度で3年目を迎える。

1) ベーシックコースのプログラム内容

ベーシックコースは表1のように7回の学習テーマのプログラムで実施している。本プログラムは、

大学内で行う場合と、施設からの申し込みがあり、本学教員が施設に向いて実施する派遣プログラムの2つの種類がある。施設で行う場合は、施設のレイネスや要望も取り入れながら行うため、表1の内容を盛り込みながらも、講義の順番や組み合わせを変更して実施している。講義を中心としながらも、必要時演習を交えて理解が進む工夫もしている。

表1 プログラムの概要

回	時間	学習テーマ	学修内容	形態	担当者
1	90分	1) 看護における研究	①研究の意義 ②研究プロセスと構造 ③研究論文の構造と種類	講義	阿部
2	90分	2) 研究テーマの設定	①研究テーマの考え方 ②研究テーマと研究デザイン・方法 ③研究デザインの種類と特徴	講義	伊藤
3	90分	3) 文献検索	①文献検索の意義 ②文献検索の方法 ③文献検索の実際	講義 演習	松本
4	90分	4) 文献講読	①文献講読の意義 ②文献の構造と読み方	講義	片山
5	90分	5) 文献講読	①文献講読の実際	演習	片山
6	90分	6) 研究倫理と研究計画書	①研究における倫理とその配慮 ②研究倫理委員会の意義と役割 ③研究計画書の意義 ④研究計画書の構造	講義	梶谷
7	90分	7) 研究のまとめ方と公表	①研究成果の公表の意義 ②研究論文・抄録のまとめ方 ③発表の種類とポイント ④発表のマナー	講義	堀

2) ベーシックコースの参加状況

表2に参加者の状況を示した。本学で行われるプ

ログラムは、個人で申し込み、参加する受講生を対象としており、7～10名の参加があった。施設派遣

表2 ベーシックコース開催状況

施設	1) 研究概論	2) 研究テーマの設定	3) 文献検索	4) 文献講読1	6) 研究倫理と研究計画書	5) 文献講読2	7) 研究のまとめ方、公表
学内	5/13 (火) 7名	6/10 (火) 7名	7/8 (火) 5名	7/22 (火) 7名	8/5 (火) 6名	9/9 (火) 5名	10/7 (火) 10名
A	5/17 (土) 35名	5/17 (土) 35名	本学7/5 (土) 24名	8/2 (土) 33名	8/2 (土) 35名	9/6 (土) 35名	9/6 (土) 35名
B	3/12 (木) 30名	3/12 (木) 30名	6/12 (木) 18名	7/10 (木) 33名	7/10 (木) 33名	9/30 (火) 25名	9/30 (火) 25名

プログラムには2施設からの申し込みがあり、A施設は、24名～35名の受講生の参加があり、B施設からは18名から33名の受講生の参加があった。参加人数に差があるのは、参加者が講義テーマを選択して、関心が高いものを受講していることが影響すると思われる。また、A施設の文献検索については24名と最も少ない参加人数であったが、これは、所属施設から学内に場所を変えての講義であったため、勤務の都合など参加できなかった受講生もいたと考えられる。

3) 評価

毎回、講義終了時点にアンケートを実施した。研

究参加の目的、理解しにくかったこと、感想を自由記述で回答してもらった。

(1) 研修参加の目的

表3～5に研究参加目的を示した。学内の受講者および2施設の受講者は、どの講義においても、院内研究に携わっているためと回答した者が最も多かった。新たな知識を習得するためや苦手な分野を克服する目的、研究に対する不安の解消、上司からの勧め、院内での研究指導に関わっているため効果的な指導がしたいなどの理由で参加していることが分かった。本コースは、研究初心者を対象としているが、院内において研究指導にあたる立場にあり、教え方を学ぶ目的で参加していた受講生もあった。

表3 研修参加の目的 (学内)

講義名	カテゴリー	n	コード	n
現場における研究	院内看護研究に携わっている	2	今年度、看護研究をすることをすすめられており、自身の目標でもあるが、なかなか進まず、1から勉強したいと思った	1
			今年度、院内の看護研究を勧められており、少し興味を持った	1
	新たな知識の習得	2	看護研究をしようと思い、1から学ぼうと思った	1
			研究をするように言われたが、なかなか進まない。そもそも研究とは何かかわからないため受講した	1
	研究指導を行う中での悩み、不安の解消・より効果的な研究指導へ向けての知識の構築	2	研究指導をしているとき、これでいいのか、実施している側のやる気をなくしているのではないかと常に考える。1から学び、できれば自分も研究に取り組みたいと思った	1
			研究指導をしているが、指導委員の中でもレベルの差がある。どうしても、やらされ研究になっており、もっと苦痛なく好きになってもらうにはどんな指導が良いいのか、1から勉強したかった	1
苦手な分野の克服	1	研究をしたいという思いはあっても、「めんどくさい」「どうしたらいいのか」「テーマが決められない」と逃げていた。前に進みたかった	1	
研究テーマの設定	院内看護研究に携わっている	2	今年度、来年度に研究を行わないといけない	2
	苦手な分野の克服	2	研究について学ぶため	1
	研究指導へ向けて、知識を習得したい	2	テーマを絞るのに困っていたため	1
			研究指導担当であるが、指導方法について学びたかった。また、はじめから研究について学び、次に指導者としての研修に参加したいと思ったため	1
看護研究に対する苦手意識の克服	1	自分が研究について勉強不足にも関わらず、研究指導をしていることに疑問をもったため	1	
文献検索	院内看護研究に携わっている	1	研究の苦手意識を取り除きたいと思った	1
	新たな知識の習得	1	今年、来年と看護研究を行わなければならないため	1
	苦手な分野の克服	1	研究に役立てるため	1
	研究指導への活用	1	文献検索、研究が苦手なので勉強しようと思った。	1
	シリーズで参加	1	文献検索について学習したかった。実際、指導しているキーワードが正しいのかわ確認したかった	1
	上司のすすめ	1	シリーズで参加しているため	1
		1	上司の紹介、	1

表3 研修参加の目的（学内）（つづき）

講義名	カテゴリー	n	コード	n	
文献講読	院内看護研究に携わっている	3	院内看護研究実践に向けての知識、技術習得のため	1	
			研究の教育を受けていないのに指導する立場になったから	1	
			院内看護研究をするにあたって、論文自体も読み慣れておらず、基礎の部分を知りたかった	1	
	新たな知識の習得	3	職場で研究に取り組んでおり、もう一度、基礎から学んでみたかった	1	
			今、看護研究を始めているが、進め方がわからなくて困った。今後の勉強のために参加した	1	
			研究指導担当になったが、知識不足で、知識を増やしたかった	1	
苦手な分野の克服	1	1	クリティークが苦手なため	1	
文献講読の実際	新たな知識の習得	4	文献クリティークをしたことがなく、研究について初めから学びたかった	1	
			自分自身が研究するために必要であった	1	
			初めて研究を行うにあたり、知識をつけたかった	1	
			院内看護研究をしようと思っており、知識がなかったため	1	
	苦手な分野の克服	1	1	クリティークが苦手なため	1
上司のすすめ	1	1	上司の勧め	1	
研究倫理と研究計画書	上司のすすめ	2	研究に興味があり、上司の勧め	1	
	研究指導への活用	1	研究指導チームの上司の勧め	1	
	新たな知識の習得	1	計画書の作成が苦手であり、後輩指導に活かすため	1	
研究のまとめ方	院内看護研究に携わっており、発表を控えている	5	今年度、研究を行う予定であったため	2	
			看護研究の発表を控えているため	2	
			院内看護研究をすることになり、基礎から学びたいと思った	1	
	新たな知識の習得	2	研究について学ぶため	1	
			研究指導担当のため、基礎から学びたかった	1	
	研究指導へ対する不安・知識の向上	1	1	研究について学んでいないのに指導係りになり、基本を学び、また、復習のため	1
	苦手な分野の克服	1	1	研究について勉強したかった。苦手であるため	1
その他	1	1	昨年度、看護研究をして、上手くまとめ、公表できなかったため	1	

表4 研修参加の目的（A施設）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
現場における研究＆研究テーマの選定(研究デザイン・方法)	院内看護研究に携わっている	13	今年の研究を行う	7
			実際に看護研究を行っている	3
			初めて看護研究を行うことになり、計画を立てる段階で悩んでいた	1
			部署、院内の研究指導のため	1
			来年度、看護研究チームの一員となるため	1
	新たな知識の習得・自己のスキルアップ	9	研究の視点、方法、分析方法を学びたいと思った	1
			看護研究を行うために、研究方法や取組を学びたかった	3
			研究する上で基本的な知識を身に付けておきたかった	2
			研究発表後、何年も経過し忘れていた。知識を深めるため	1
			自分自身の成長、看護観を深めたいと思った	1
	倫理委員会のメンバーとして、必要な知識を身に付けたい。研究の基礎から学びたいから	1		
	看護研究の指導的立場にあり、指導のスキルを高めたい	5	看護研究について苦手意識が強かった。	2
			指導的立場となり、困ったり悩んだりすることが多くあるから	
			研究の知識・幅を広げ、指導に役立てたい	1
			看護倫理委員の一員として、院内看護研究に携わっており、指導的立場として必要なスキルであった。	1
興味、関心があった				
現在、看護研究に取り組んでおり、指導に活かしたい				
苦手な分野の克服	2	指導的立場にあり、看護研究の一連の流れを学習したいから	1	
		苦手意識を克服し、今後の研究に取り組む必要があるから	1	
			文献検索の方法やテーマの決め方で苦渋したため	1

表4 研修参加の目的（A施設）（つづき）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
文献検索	院内看護研究に携わっている中で、文献検索で困ることや迷うことが多い。今後の進め方について学びたい。	15	今年度、看護研究チームの一員であり、文献が何も分からなかったため	7
			現在、看護研究を行っている	3
			現在、看護研究を行っており、興味があった	2
			来年度、看護研究チームになるから。	1
			前回、研究した際、文献検索がうまくいかなかったから	1
			研究を指導する中で迷うことが多くあるため	1
			来年度に向けて参考にしたい	1
	新たな知識の獲得	5	院内の看護研究を行っているが、文献検索が苦手だから	1
			研究に対して少し興味があり、日々、問題意識を持つことが多くあった	1
			文献検索の新たな知識を習得したかった	1
			今まで行ってきた文献検索のレベルをアップさせるため	1
	研究指導のスキルを高めたい	3	初めての看護研究であり、文献検索について知りたかった	1
			文献検索の方法を知りたかった	1
			指導的立場にあり、必要性、手法を学びたい	1
		1	役に立つと思ったから	1
他者からのすすめ	1	講義の参加を勧められた	1	
文献講読	院内看護研究に携わっており、知識を深めたい	18	今年、看護研究を行うため	7
			現在、看護研究を行っているため	3
			今年度、看護研究に携わっており、自己の知識を深めたいから	3
			看護研究を行うにあたり、文献購読に興味があった	1
			看護研究を主体的に行っていく立場となった	1
			来年度、看護研究班になり、勧められた	1
			研究委員となったため	1
			看護研究に取り組んでいるため	1
	知識を深めたい	11	文献購読について学びたかったから	1
			看護研究に関する研修は何度か受講しているが、コースになっているのは初めてであり、段階的に学びたかった。	1
			来年度、看護研究の担当であり、知識を深めたいから	1
			研究に取り組む時、事前準備の知識を習得したかった	1
			看護研究について学んだことがなかったため	1
			研究について学びを深めたいから	1
			勉強したかった	2
			これまで研修を受けても理解が困難だった	1
			文献の読み方について知識が乏しいため	1
文献の使用方法を正しく理解するため	1			
論文を読む視点を知りたかった				
研究指導に役立てる	2	研究指導の立場にあるため	2	
自己のスキルアップ（2）	2	研究推進委員であり、自身の研究に活かしたい	1	
		自己のスキルアップ	1	
研究倫理と研究計画書	院内看護研究に携わっており、興味を持った	15	現在、看護研究を行っているため	6
			今年度、看護研究を実施するにあたり知識をつけたかった	3
			看護研究を主体的に行っていく立場であるため	3
			今後の看護研究に役立てるため	2
			今回、看護研究委員であり、倫理について興味を持った	1
	研究計画書の作成、倫理的配慮に関する知識を深めたい	11	研究について学びを深めたいから（2）	2
			研究計画書の書き方の知識整理をしたかった	5
			倫理委員会の承認を受ける上での必要な知識と一つ一つの意義について理解したかった	1
			研究計画書を作成するために倫理的配慮について学びたかった	1
	研究の指導的立場にある	3	研究コースに興味、関心を持ち、受講したいと思った倫理委員会に所属したことがあるから	1
			来年度、看護研究を行うにあたり、知識を深め、より良いものにしたいと思った	1
指導的立場にあるため			3	
研究に興味があるが、分からないことがある	3	計画書について分からないことがあった	1	
		看護研究に関して興味があるため	1	
自己のスキルアップ	1	計画書が作成途中であるため	1	
上司のすすめ	1	スキルアップ看護研究発表予定	1	
	1	次年度、看護研究班になり、上司に勧められた	1	

表4 研修参加の目的（A施設）（つづき）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
文献講読の実際	院内看護研究に携わっている	16	看護研究をしているため	16
	新たな知識の習得	4	論文の書き方を学びたかった	1
			知識を得るため	1
			さまざまな研究を読む力を養いたいと思ったため	1
			看護研究について基本的な部分から学びたいと思ったため	1
	クリティークの力、知識をつけたい	2	クリティークの実際を学ぶため	2
	自己のスキルアップ	1	自身の研究に活かしたい	1
前回の講義の影響	2	シリーズ化で受講しているため参加した	1	
その他	2	前回の課題の答え、理解を深めたいから	1	
		10月に発表を控えているため	1	
研究のまとめ方	院内看護研究に携わっている(18)	21	現在、看護研究を行っているため	19
	知識獲得	4	2月に発表があるため	2
			知識を得るため	1
			病棟での研究に役立てたい、他者に伝わるようにまとめる方法を学びたかった	1
	その他	3	看護研究について、基本的なところから学びたいと思った	1
			看護研究について学び、現在行っている看護研究に活かしたいと思った	1
	論文の書き方を学びたい	3	看護研究をまとめるため	1
			研究にいかしたいと思ったから	1
	苦手分野の克服・自己のスキルアップ	1	看護、究の学習に興味・関心があったので、機会だと思った。ベースの学習をpushさせることが大切だと思った	1
			論文の書き方を学びたかったため	2
適切な指導ができるようになりたい(2)	2	論理的に書くコツを知りたい	1	
		苦手分野であり、知識向上のため	1	
倫理委員会の一員であり、指導的立場にある	1	適切なアドバイスができるように	1	
		学生指導の参考にするため	1	
		1	研究を指導する立場であり、倫理委員会のメンバーである	1

表5 研究参加の目的（B施設）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
文献検索	院内看護研究に携わっており、勉強したい	9	研究委員だから	4
			研究委員として十分にサポートできる力がない	1
			研究について再勉強したい	1
			看護研究をするから	3
	新たな知識の習得	6	勉強、知識向上のため	2
研究に関わる上で、検索方法が分からなかったため			1	
文献検索をしても思っている文献が見つからず、良い文献検索の方法を学びたかった			1	
上司のすすめ	1	研究したり、指導する立場にあり、ポイントを知りたいと思った	1	
文献講読	院内看護研究に携わっており、勉強したい	10	効率よく文献検索をする方法を知りたかった	1
			病院からすすめられたから	1
			看護研究をするから	7
	研究委員としての研鑽	5	主研究者であり、知識を深めたいと思った	3
			研究委員となり、より詳しく研究について学びたいと思った	3
	論文の読み方・新たな知識の習得(5)	5	研究委員として十分にサポートできる力がない	1
			研究委員会での企画、委員としての勉強のため	1
研究に関する本を読んだり、研究をする際など参考にしたいと思った			1	
研究指導に役立てたい	2	看護研究を行うにあたり、論文の読みかたを勉強したいと思った	1	
		研究委員となり、より詳しく研究について学びたいと思った	1	
研究、外部講師の講義に興味がある(2)	2	論文を査読したり、自分が研究を行う際の有効な文献購読を知りたい	1	
		主研究者であり、知識を深めたいと思った	1	
		2	看護研究委員のため、今後の指導に役立てたいから	2
		2	勧められたし、興味もあった	1
		2	研究について興味もあり、外部講師の講義を聴ける貴重な機会だから	1

表5 研究参加の目的（B施設）（つづき）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
研究倫理と研究計画書	院内看護研究に携わっている	12	看護研究をするから	5
			看護研究委員のため	5
			主研究者となったため	2
	研究者、研究委員として知識を習得したい	8	研究者として、知識を深めたいと考えた	4
			正しい計画書の書き方や倫理的な配慮について学びたいと思った	1
			研究計画書を指導する立場で、的確なアドバイスができるように	1
			看護研究委員としてサポートするにあたり学習を深めたいと考えた	1
	上司のすすめ	2	上司のすすめ	2
研究、外部講師の講義に興味がある	1	研究について興味もあり、外部講師の講義が聴きたかったから	1	
文献購読の実際	院内看護研究に携わっている	10	研究メンバーの一員となったため	6
			研究委員で、勉強中だから	2
			主研究者として研究を行うことになったため	2
	研究者、研究委員として知識を習得したい	6	研究委員として研究に関わり、もっと知識を深めたいと思った	2
			自分の行っていることの見直し、新たな勉強のため	2
			主研究者であり、他者の論文を理解する際の必要な視点を理解したい	1
前回の講義の影響	4	研究を行うにあたり、文献の読み方を知りたい	1	
研究のまとめ方	院内看護研究に携わっている	13	前回、出席したため	2
			前回の続きの確認をしようと思った	2
			研究を行うため	7
			今年度、研究リーダーとなり、今後の参考のためにも受講した	2
	新たな知識の習得	5	研究委員の一員として、研究に関わるため	3
			今年、主研究者であるから	1
			新たな勉強のため	2
			知識不足な面が多く、もっと勉強したいと思った	1
	先の講義の影響	2	主研究者として看護研究を行うにあたり、研究の方法をびたかった	1
			研究を行うにあたり、論文のまとめかたを知りたい	1
文献購読の実際を受講し、研究について興味を持った	1			
先の講義を受けたため	1			

(2)理解しにくかったこと

表6～8に理解しにくかったことを示した。学内参加者では、文献クリティークに関すること4件、統計に関すること3件は、他の内容に比べて理解しにくかったとの回答が多かった。

A施設の参加者も統計に関することが14件で最も

多く、次いで文献検索の方法6件であった。B施設の参加者では概念枠組みについての理解について4件で最も多かった。B施設について統計に関する意見がでなかったのは、講義の順番を入れ替えているため、現時点で講義が終了していないことが影響していると考えられる。統計手法による研究は、講義

表6 理解しにくかったこと（学内）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
現場における研究	全体の流れ	1	全体の流れがまだよく分からない	1
研究テーマの設定	統計に関すること	3	理解しやすく分かりやすかった	1
			統計が難しかった	1
			統計は嫌い、詳しくではなかったので分からなかった	1
	統計学的処理の方法	1		
その他	デザイン、特に研究方法	1		
文献検索	クリティークに関すること	1	良い文献と悪い文献の見極め方	1
	その他	2	わからないことが分からない状態	1
文献購読	クリティークに関すること	4	調べられることがたくさんありそうで、大変。	1
			クリティークという言葉は初めて聞いた	1
			クリティークの視点は分かっているつもりだったが、前提内容を見るとできていない	1
			研究方法、分析、結果のクリティークについて	1
	クリティークの概要編について難しかった	1		
	分析に関すること	1	分析技法などは学生の時に抗議や演習でやったが、難しい	1
学ぶ楽しさ	3	次回、ディスカッションが楽しみだ。ディスカッションをした方が分かりやすい	3	
全体的な理解困難	1	内容全体が、研究が苦手な私にとっては理解困難だ	1	

表6 理解しにくかったこと（学内）（つづき）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
文献講読の実際	クリティックに関すること	2	文献クリティックフォーマットに沿って分ける事	1
			クリティックは難しい	1
	考察に関すること	1	考察が難しかった	1
	研究デザインに関すること	1	研究のデザインのところ	1
研究倫理と研究計画書	イメージ困難	2	研究に対する知識がないため、漠然としている	1
			その時は理解するが、毎日、使うものではないため、統計は困難だ	1
研究のまとめ方	論文に関すること	2	実際に研究を行ったことがないため、イメージするのが難しい	2
			講義内容は分かりやすかった	1
研究のまとめ方	論文に関すること	2	論文と抄録について	1
			わかりやすく簡潔に書こうと思うが、それが一番難しい	1
			分かりやすかった	1

表7 理解しにくかったこと（A施設）

講義名	カテゴリー	n	コード	n
現場における研究 & 研究テーマの選定(研究デザイン、方法)	統計学に関すること	14	統計学について	5
			統計と集計についての話分からない	3
			検定方法の使い方が難しい	3
			統計の使い方が難しい	1
			統計の出し方、サンプルから全体を出す方法	1
	研究方法に関すること	3	何を出すときに、どの表や式を使うかなどもわからない	1
			量的、質的研究について、なんとなくしか理解できなかった	1
			研究方法をもう少し具体的に教えてほしい	1
	その他	1	質的研究について	1
	文献検索	文献検索に関すること	6	例が分かりにくい
研究疑問の位置づけ				1
文献検討のkeywordをまとめられなかった。必要な文献を探すのに時間がかかった				1
keywordの設定方法				1
医中誌で検索し、タイトルが出てきた後の文章の見方				1
自分達の疑問を研究につなげる、絞込みをしてテーマまで結びつけること				1
理解しやすい講義		3	文献検討のkeyword	1
			文献の精度の高さ	1
概念図に関すること		1	全体的によくわかった	2
文献講読		用語の理解困難	3	年1回は看護研究に関する研修を受講しているが、一番簡潔で何が大切が分かりやすかった
	概念図の作り方がわからない			1
	知らない用語が多く、全体的に難しかった			3
研究倫理と研究計画書	研究枠組みに関すること	4	課題の内容が分からなかった	1
			研究方法や文章に起こす方法を理解していないと思ひ浮かばないことがあった	1
			文献クリティックのフォーマットに沿って実際に説明してほしい	1
			枠組みについて	1
研究のまとめ方	用語の理解困難	4	研究計画書がしっかりしていないと道に迷ってしまうのではないかと不安	1
			概念枠組みの例②の図が理解できなかった	1
			研究の枠組み、概念と変数	1
			ところどころ難しい用語があった	1
文献講読の実際	クリティックに関すること	5	全体的に難しい用語が多く、理解困難だった	1
			利益相反のところ	1
			タイトル、テーマ、目的、一緒に思えて分かりづらかった	1
			クリティックを実際に行うのは難しい	2
			クリティック結果②の英文は何を書くのかわからない	1
研究のまとめ方	論文の構成に関すること	1	自分がどの位置からクリティックするのかかわからなかった	1
			原著論文を見ると、どれも正しいと思ってしまう	1
研究のまとめ方	その他	2	参考文献④p.10	1
			「この人の目的、この人のできた環境の中でどうすべきだったのか、限られた条件で、どこを整えるか、限られた条件で、この論文はうまくおさめてくれている」という話と、「批判的に文献を読む」との話が矛盾・相反しているような、否定せず読むということを言いたいのか、わかりづらかった。	1
			論文の基本構成がわからない	1
			よく分かった	1
			難しかった	1

表8 理解しにくかったこと（B施設）

講義名	カテゴリー	n	コード	n		
文献検索	文献に関すること	2	文献整理の方法	1		
			一次文献と二次文献	1		
文献講読	結論に関すること	2	結論とまとめがわかりにくい	1		
			結論と結びの違	1		
	考察に関すること	1	考察の書き方が分からない。 ・先行研究ではない概念のような文献を引用してよいのか ・知りたいことが3項目あった場合、3項目についてすべて引用文献に基づいて根拠を書くのか？	1		
研究倫理と 研究計画書	概念枠組みに関すること	4	概念枠組みがやはり難しい	1		
			概念枠組みの構成方法について	1		
			概念枠組みについて、もう少し詳しく知りたかった	1		
			やっぱり枠組みを自分で考えていくのが難しいと思った	1		
	倫理に関すること	2	倫理的配慮についてあまり詳しく考えたことがなかったんですが、重要性を知ることができた	1		
			倫理についてが深く、調べたり知る必要があると感じた。	1		
経験しないと分からない	2	研究でもいろいろな種類があり（質的、実験など）難しく感じた。（実際どのような研究をしているか読んでみると分かるのかなと思った。）	1			
		実際にしてみないと分からない。	1			
文献講読の実際	表現方法	3	裏付けの仕方	1		
			人によっては捉え方が様々で、表現の仕方が難しいと感じた。クリティークをもう少し学びたい	1		
			研究者は読む人の気持ちでまとめなくてもいいのか？	1		
	文献を読みとくこと	2	自分の知識が低いので、文献を読み解くのに大変だった。	1		
研究のまとめ方	グラフ使い方	1	結果と分析内容の一貫性があるか、表をしっかりと見ることが難しかった	1		
			グラフの使い方（種類）などは多様にあって、自分の研究の際にはどう使用しようか迷っている	1		
	独自の考えの捉え方	1	論文の'自分独自の主張'と作文の'自分の意見や考え'というところで、自分独自の主張が'作文のようにとらえてしまいそう。	1		
			発表方法	1	発表方法は全体的に難しく感じた。実際やってみないと分からないこともあるのかなと思った。	1

を受けるだけでは実際に理解するのは困難であると言える。質問紙の選択や質問紙の作成、量的データをどのように分析するかなど、手元にデータを持った上で行うのがより効果的であると考え。

(3)受講後の感想

表9にみるように学内受講者では、看護研究概要において、分かりやすかった、前向きな気持ちになった、次回も受講したいという感想を持つ一方で、受講後に疑問を持ったままの受講生もあった。受講後の疑問は今後の学びに繋がっていき、本プログラムが、研究についての学習を深める手がかりになっていくと考えられる。研究テーマの設定では、分析方法の種類の理解、着手方法を見出す、講義と実際の連動などの理解を得られたという回答が得られた。ただ、資料を十分に時間内に活用できていなかったという意見もあったが、資料は手元に残るため、今後の学習のための参考になることを望む。文献検索においては、キーワードをヒットさせるのが困難、

自分のテーマとしている概念図のまとめ方を教えて欲しい、自分のテーマが曖昧であるため困難など、困難感を感じる受講者がいる一方で、今後に役立たい、文献検索の大切さを実感するなどの感想があった。実際にパソコンを用いて文献検索を行うため、事前にテーマを考えてくることを促すなどの準備をすることが必要であったと考える。文献講読では、時間が不足であったが、研究意欲を向上させていた。文献講読の実際においては、実践に役立つ講義であったが、理解の不足も感じているようである。研究倫理および計画書作成においては、分かりやすかったとの感想があった。研究のまとめにおいては、分かりやすい講義であったが、今後スタッフを指導していく上で不安を感じている受講者もいた。

いずれにしても、一回の講義を受講しただけで、研究を実践できるというものではない。本プログラムの受講を契機に、今後研究に取り組む際に、基本的な内容を振り返り、少しでも看護学に貢献しうる

表9 感想（学内）

講義内容	カテゴリー	n	コード	n
現場における研究	わかりやすい講義	3	わかりやすい言葉で理解しやすい	3
	受講後の疑問点	3	模倣、まねるとはどういった〇〇？	1
			同じテーマ・方法でも病院が変わればどう結果が変わるか	1
			使える技術なのか検討し使ってよいのか	1
	研究意欲の向上	2	研究での悩みが私達だけではないと知る	1
			安心して研究に取り組める気がする	1
	前向きな気持ちへの転換	2	気楽に考えていいのかな	1
			気持ちが少し楽になる	1
	受講を希望	1	次回も参加する	1
	活用する	1	自分の研究にいかす	1
勉強不足を実感	1	自分自身の勉強不足・努力が必要と実感した	1	
専門知識を学ぶ	1	プロの方の話を聞けてとても学びになりました	1	
楽しく受講	1	楽しく講義を受けさせてもらう	1	
感謝	1	有り難うございました	1	
研究テーマの設定	分析方法の種類が理解できた	3	分析方法の種類がよくわかった	3
	着手方法を見いだす	2	たくさんの研究に触れることから始めたい	1
			何から取り組めばよいか明確になる	1
	講義と実際を連動	1	講義内容と実際をリンクさせて考えた	1
	研究ができるか不安があった	1	研究ができるか不安が大きかった	1
	ふり返る機会を得る	1	もう一度ふり返ってみる	1
焦らず取り組む	1	焦らず進めていこうと思う	1	
受講時間の不足	1	資料よりも受講時間が短い	1	
文献検索	希望する講義内容	3	(自分の) 概念図のまとめ方を教えてほしい	1
			キーワードをヒットさせるのは難しい	1
			自分のテーマがはっきりしないので文献検索もいまいち	1
	文献検索の重要性を確認	2	文献検索が大事なことがわかりました	2
	研究意欲の向上	2	まとめていけるよう頑張りたい	2
	直接指導が効果的	2	少人数で直接指導	2
	今後に役立てる	1	今後に役立てたい	1
指導方法を学ぶ	1	教えていただいたように指導します	1	
受講時間の不足	1	もう少し時間がほしい	1	
文献講読	受講時間の不足	3	時間が短く感じられ、あと90分はほしい	2
			資料（パワーポイント）途中だった時間も少ない	1
	研究意欲の向上	2	次回にむけて課題に取り組みたい	1
			苦手な分野だが頑張りたい	1
研究の難しさを知る	1	研究とは奥が深く難しい	1	
わかりやすい講義	1	少人数でわかりやすい指導	1	
文献講読の実際	実践に役立つ講義内容	2	文献の見方や考え方を学べたので活かせる	1
			大変勉強になりました	1
	細やかな説明でわかりやすい	1	わかりやすかった	1
	理解の不足を感じる	1	先生が頭が良すぎて理解しにくいところもありました	1
文献講読の必要性を理解	1	文献をたくさん読むことが必要だ	1	
研究倫理と研究計画書	わかりやすい講義	2	これまでの復習にもなってわかりやすかった	1
			大変勉強になりました	1
研究のまとめ方	わかりやすい講義	3	全体的に分かりやすくてよかった	1
			聞きやすかった	1
	知識が深まったように思う	1	1	
	今後の参考になる	1	具体的な内容を教えていただけて今後にかかせそう	1
	今後を活かす	1	研究発表にむけて活かしていきます	1
研究の難しさを知る	1	難しく感じた講義もありました	1	
スタッフを指導する不安	1	病院に帰ってうまくスタッフを指導できるか不安	1	

研究へと繋がるのが大切ではないかと考える。

表10に示したようにA施設においては、研究方法を理解し、研究意欲を向上させたと感じる受講生がいる一方で、講義時間の不足や講義進度が速いと感じる受講生もいた。また、量的研究についてももう少し詳細に学びたかったとの意見もあった。文献検索においては、実際に文献検索をし、自分のテーマに向けた検索、文献の入手、実践を交えての講義が分かりやすかったと等の意見が多く、充実感が高かった。実際に、演習室で自分自身のテーマに向き合い

ながら文献検索の実践をしたことで、より理解が深められてのだと考える。文献講読については、講読を通して、研究プロセスの理解が深まり、何に着眼しながら論文を読む必要があるのかの理解に繋がっていた。研究倫理と研究計画書では、具体的でポイントが分かりやすかった、研究の進め方を改めて学べた、講義を参考に計画書を見直したいなど、肯定的な感想が多かった。研究のまとめ方では、事例を用いて、ポイントがわかりやすく、看護研究についての理解が深められたという意見が11件で最も多

表10 感想 (A施設)

講義内容	カテゴリー	n	コード	n
研究デザイン・方法	研究方法を理解	4	研究に対する取り組みはわかりやすい	4
	研究意欲の向上	4	研究が楽しいと思えるような気がしました	1
			焦らず一つ一つ頑張っていきたい	1
			大変充実したものとなりました	1
			自分の成長の機会	1
	受講時間の不足	4	時間が不足していた	2
			資料が細かく丁寧なので講義時間の短さが残念	1
			限られた時間の中でたくさんの内容の講義	1
	研究の進め方を参考にする	3	資料を再度読み直し理解を深める	2
			どう進めていくか参考になった	1
	希望する講義内容	3	量的研究の方法を詳しく学びたかったがかなわなかった	1
		概論よりも、方法・分析を学びたかった	1	
		研究方法の説明をもう少し説明してほしい	1	
資料を参考にする	2	とても勉強になった	1	
		資料も参考になる	1	
研究を患者に還元する	2	研究することで患者にプラスになればいい	1	
		病棟の不思議をみつけていけるよう努力	1	
講義の進行	2	すごく早くて興味になったままのところもある	1	
		進行が早かった	1	
感謝	3	有り難うございました	3	
文献検索	検索方法を実践した学び	11	文献検索がしやすくなりました	2
			資料が探せてとても助かりました	2
			実際に検索、文献を持ち帰りでできて良かった	2
			自分達で検索したときよりも良い文献を見つけた	1
			次研究するときできる気がしてきました	1
			教えていただいたポイントで探してみたい	1
			実践を交えての講義で分かりやすい	1
	文献検索の重要性を確認	3	文献検索の重要性を感じた	3
	わかりやすい講義	3	講義がわかりやすかった	3
	指導方法を学ぶ	1	スタッフへ指導の仕方の手本にしたい	1
	ふり返る機会を得る	1	自分達の研究テーマの見直しにもなる	1
文献検索に実用的	1	すごく役立ちました	1	
受講環境	1	良い環境でよかった	1	
研究の難しさを知る	1	看護研究は奥が深い	1	

表10 感想（A施設）（つづき）

講義内容	カテゴリー	n	コード	n	
文献講読	研究方法を理解	4	研究方法についてのプロセスが理解できた	2	
			研究ということについて考える	1	
			研究をするためには知識が必要	1	
	講義内容が分かりやすい	4	わかりやすい講義	1	
			資料がカラーでみやすい	1	
			簡潔で時間もちょうど良くわかりやすい	1	
			話すペースがゆっくりでわかりやすい	1	
	今後の研究に役立てる	2	2	学んだことをいかしていきたい	1
	研究の難しさを知る	1	1	今後文献を読むとき論文を書くとき役立てたい	1
	新たな学びを得る	1	1	難しかった	1
感謝	1	1	言葉が新しく聞こえ自分が古く感じた	1	
文献講読の実際	文献講読方法を学ぶ	5	有り難うございました	1	
	実践に役立つ講義内容	4	嗜み砕いて説明していただきわかりやすい	4	
			何を読むべきかが少しわかりました	1	
			実践に役立つ内容	1	
			その場でできる研究方法を続ける	1	
	クリティークの必要性を理解	2	2	自分達の論文もたくさん意見を聞きたい	1
	グループワークの有用性	2	2	看護が看護学として発展することに貢献できる喜び	1
	受講後の心理変化	1	1	クリティークの大切さを理解	2
	感謝	4	4	グループワーク後の講義で理解しやすかった	2
	研究倫理と研究計画書*	具体的な説明で理解できた	9	難しかった	1
クリティークフォーマットについてよくわかりました				1	
ポイントがわかりやすい				2	
具体的な説明でとてもわかりやすい				2	
研究の進め方を改めて学ぶ				1	
大変参考になりました				1	
他大学のセミナーはとても刺激的で良かった				1	
講義を参考に計画書を見直す		1			
受講後の心理変化		3	3	講義を参考に計画書を見直す	1
看護研究に活用する		2	2	難しい	2
研究のまとめ方	講義を理解する	11	最後のQ&Aで気が楽になる	1	
			研究で取り入れる	1	
			講義を取り入れたい	1	
	研究意欲の向上	5	楽しく学べました	2	
			そんなに難しく考えなくてもよいと言われてもらった	1	
	講義を参考にする	3	考え方が理解できた気がします	1	
			研究に取り組むハードルが少し下がった	1	
			まとめ方を参考にする	1	
感謝	講義資料を活用する	2	プレゼンテーション方法はシンプルが大事	1	
			表や図の使い方なども参考にになりました	1	
	受講後の心理変化	2	資料を活用しながらまとめたい	1	
			講義をもとに今年の研究を行いたい	1	
	スタッフを指導する不安	1	1	自分達のやっている研究のレベルが低すぎると感じる	1
	臨床家の強み	1	1	先生の研究はすごいと感じる	1
感謝	3	3	新しい看護研究の方法をスタッフへ指導	1	
			臨床だからこそその強みを活かす	1	
			有り難うございました	3	

かったが、難しいと感想を持つ受講生も3名いた。

表11にB施設の状況を示す。この施設では、研究概論と研究テーマの設定を講義の最終に設定した。

これは、受講者が、既に研究テーマを決めて研究を進めている段階であり、現実の研究段階にそったプログラムを展開するためであった。そのテーマに基

表11 感想 (B施設)

講義名	カテゴリー	n	コード	n
研究テーマの設定	分析方法を理解		わかりやすかった	1
文献検索	わかりやすい講義	4	わかりやすかった	2
			実技を交えての講義で分かりやすい 分かりやすく丁寧に教えていただいた	1
	基本から学習できた	3	一から勉強できた 基本的なことがわかりよかった	2 1
	受講を希望	1	続けて受講し、学習したい	1
文献講読	わかりやすい講義	5	分かりやすい説明でした	3
			明確な説明の仕方でした	2
			全部改めて納得した	2
	研究意欲の向上	5	少し気持ちが楽になりました	1
			意欲がわく	1
			すっきりする研究論文をいっぱい読みたい 他人事だと思っていたが研究してみたくなる 取り組むのに抵抗がなくなった	1 1 1
	研究プロセスを再確認	3	プロセスを再認識できた 文献講読のポイントが理解できた	2 1
	文献講読からの学び	3	論理的にまとめることを再認識 再度勉強させていただきよかったこともある 一本の筋を通すことの大切さがわかる	1 1 1
	受講後の心理	3	面白かった すごく楽しかった ぜひ9月30日のグループワークには参加したい	1 1 1
	今後に役立てる	2	今後活かしていきたい 今後自分の研究論文で役立てたい	1 1
研究指導に活かす	1	何を研究したかったのかわからなくなる方の関わり方	1	
新たな学びに驚く	1	批判という言葉が良い意味でとらえることができたのは初めてで驚きました	1	
文献講読の実際	受講後の心理変化	4	もっと気楽に読んでほしい	1
			温かい目で研究をみてくださるとうれしい	1
			貴重な時間を過ごせてよかった	1
			研究目的にある症例だけを選んでよいことに驚いた	1
	わかりやすい講義	3	わかりやすい	2
			わかったような気になりました	1
	文献クリティークの困難さ	3	文献を読むのは難しい やっぱりクリティークは難しい 次、一人で行えるかと言えられないと思う	1 1 1
	今後を活用する	3	今後の文献講読に活かしたい 自身の研究論文作成に活かしたい 臨床にありがちな内容を新たに考える機会	1 1 1
文献クリティークのポイント	2	書き手の気持ちを理解できるように読む 読んで疑問がたかさんでくるとクリティークしやすい	1 1	
グループワークの有用性	2	グループワーク自分とは違う意見を聞くことができた	1	
感謝		有り難うございました	1	
研究倫理と研究計画書	受講を希望	5	もっと聞きたい	1
			研究の「技」を教えてください	1
			教えてもらいつつ研究の技を極めたい	1
			今年度の計画書を作成する前に聞きたかった 主研究の時に講義をうけてたらもっと良い計画書が書けたと思いました、 もう少し力を抜いて取り組んでもよいのかな	1 2
	受講後の心理変化	4	講義が面白かった	1
			楽しく受講できました	1
	看護研究に活用する	3	再度読み直してみよう	1
			今後の参考になる 倫理的配慮を学ぶ	1 1
研究意欲の向上	2	まず、やってみることが大切 研究が取り組みやすいと思った	1 1	
臨床での気づきを研究に活かす	2	仕事をしている時に研究したい内容を考える 研究しようという意識がもてるのではないかと	1 1	
研究指導の関わり方を考える	1	こういったサポートができればいい	1	
研究のまとめ方を学ぶ	1	以前より理解できた	1	

表11 感想 (B施設) (つづき)

講義名	カテゴリー	n	コード	n
研究のまとめ方	研究のプロセスを学ぶ	8	一からわかりやすく様々なことが学べた	2
			今後の参考になる	1
			普段行っていることの見直しができた	1
研究のまとめ方	研究のプロセスを学ぶ		どうすればわかりやすく伝わるのかわかりました	1
			研究論文の書き方がわかりました	1
			先行研究を読む癖をつけたい	1
			統計学の勉強をしていきたい	1
	受講後の心理変化	4	少し気持ちが楽になりました	1
			楽しく聞くことができた	1
			もっと早く知りたかった	1
	受講を希望 講義の進行 感謝	1	少し光が見えた気がした	1
			もっと講義を受けてみたい	1
			どんどん進めていかれて眠くならなかった	1
		1	有り難うございました	1

づいて研究を進めるために文献検討については、分かりやすかった、基本から学べたとの意見があった。文献講読では、分かりやすく、意欲が高まり、研究に取り組むことへの抵抗がなくなった、グループワークにより考えが深まったなどの肯定的な意見が多くあった。しかし、少数ではあるが、文献を読むのはやっぱり難しいとの意見もあった。研究倫理と研究計画書については、講義が面白く、もっと聞きたい、研究の「技」をもっと教えてほしいなどの意見があった。そして、まずやってみようと思った、仕事をやっている時に研究したい内容を考えると良いなど、研究への取り組みに前向きな姿勢が窺えた。研究のまとめ方については、分かりやすく様々なことが学べた、統計学の勉強をしていきたいなど、研究のプロセスが学べたという意見が多かった。受講後には、気持ちが楽になった、少し光が見えた気がしたなど、研究に対する負担感が軽減した受講生もあった。

まとめ

以上、学内でのプログラム、2施設でのプログラムの実施において、概ね内容の理解は得られたと評価できる。しかし、困難感を抱えている受講生もいるため、実際の研究に取り組む中で、自己の課題を達成できるような支援が今後も必要であると考えられる。B施設においては、研究テーマを決定していたため、講義内容の理解も進みやすかったと考える。看護研究は、机上の学習だけで、その理解を深める

には限界がある。研究支援プログラムを研究実施に即して、展開するような運営方法が必要である。また、統計的な研究手法、質的な研究手法など、課題を特化して取り上げたプログラムを実施することも大切であろう。今回のベーシックコースの趣旨は、看護研究初心者への研究プロセスについての理解を深めることであった。この後に準備されているプラクティスコースでは、個々のレディネスに応じた、プログラムを実施することにより、ベーシックコースでは困難であった課題が解決されるのではないかと考える。

また、今年度は、先述したように施設において研究指導を担う受講生もあったため、そのニーズに応えるために、2014年度から、研究指導者コースを開講することとなった。プログラム受講者が、今後研究の知識を活用し、臨床の場における看護現象を様々な角度から捉え、看護の質の向上に繋がることを願っている。今後も受講者のニーズを捉えたプログラムを開発していきたいと考えている。

看護学部看護学科 准教授 梶谷 佳子

2. プラクティスコース

本コースは、受講者が個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、院内研究を行うレベルの研修プログラムである。1年間に7回（1回90分）、研究テーマに応じた専門領域の講師（専任講師以上の専任教員）が個別指導を

表1 看護研究支援事業〔ブラクティスコース〕の実際例

回	実際の指導・支援内容の実際	詳細
1	臨床での日々の課題	・日々の疑問や所属組織において改善したいとことは何か
	研究プロセスとは	・研究資源（時間、物質、人など）は何か ・研究作業と看護実践との違い など
2	研究テーマの設定	・研究テーマの絞り込み、書籍や論文からの知見の整理など
3	計画書、研究倫理書の書き方	・計画書、研究倫理書類の作成など
4	データの整理	・データの洗い出し、必要なデータの追加など
5	データの分析	・担当教員とともにデータの解釈と結果の構成
		・結果と考察の整理 など
6	発表について、ねらい、媒体の利用方法	・パワーポイントによる発表方法、抄録の構成方法
		・考察の整理と構成、引用文献の活用 など
7	発表のポイント	・口頭発表の練習 など

行うものである。(プログラムの詳細は、「資料」参照) 2014年度は4名の受講者にブラクティスコースが実施され、4名の教員(河原、伊藤、片山、中橋)が担当した。

受講者3名は、所属する医療機関において2014年度のうちに院内研究を実施することを課せられており、研究を行う必要性や動機を有していた。受講者は、本事業のベーシックコースにあたる看護研究の基礎レベルの学習している受講者とそうでない受講者がいた。学習している受講者であっても、研究の経験としてはほとんどなく、実際に研究を進めるためには、綿密な指導が必要な段階であった。例えば、受講者は、「自分の疑問や課題は研究になりえるのか」、「また、それらを研究とするにはどのようにしたらよいのか」、「どのように研究の見通しを立てればいいのか」、さらに「どの時期にどの段階までどのように進めておけばよいか」等の多くの疑問と不安を持っていた。これらひとつひとつを担当教員からのレクチャーを受けたりディスカッションをしながら、受講者のテーマと現実的な環境に応じて研究を進めた。受講者は、研究の進捗状況に応じ指導の日程を調整しながら、研究を進めた。しかし、この3名の受講者は、今年度中間管理職になり、部署のローテーションをしながら、本コースで研究を進めなければならない、成果発表の期日が設定され、勇み足の指導になることがあった。研究とともに部署のローテーションによる業務の習得と、受講者にとって過重負担となっていることが懸念される。また、PCやネットワーク環境がない受講者とは、データのや

り取りに難渋した。残る受講者の1名は、今後のキャリアの方向性を思慮し本コースを受講した。そのため、進路相談を含めながら、修士課程進学にむけて研究計画書の作成過程の指導となった。

受講者のテーマは、看護管理、看護教育、がん看護等の領域であった。本コースのある受講者の実際例を表1に示す。2014年8月から2015年2月に月1回のペース、一部Eメールやりとりを行い、研究を進めた。受講者は、意欲的に取り組みながら院内研究を完成させ、実際の経験を通しての看護研究の学びができたと考えられる。

今後は、本事業のベーシックコースに準ずる研修を受講していること、PC上でのインターネット環境を有していることを受講条件として、明確に示すとともに、さまざまな機会に本コースのPRを行い、受講者の増加を図っていく。

3. 院内研究指導者コース

本コースは、部門・部署の研究を指導する立場にある人を対象として、院内研究において各部署の円滑な研究活動をリード、サポートするための研修プログラムとして設定した。これは、2013年度のベーシックコースの受講者の多くが、院内研究の指導のため研究の基礎を学ぶ目的をもっていたため、指導者を対象としたコースを新たに設けたものである。開催時期を2月とし、次年度の研究にむけた事前学習と位置づけた。プログラムは、1コマ(90分)で研究の基礎として重要なポイントを押さえ、その後2コマ(180分)をグループ学習として、受講者の

施設の研究指導・支援の状況における問題を見出し、その解決の糸口を見つけることを研修の目標とした。(プログラムの詳細は、「資料」参照)

受講者は、2施設3名の申し込みがあったが、1施設1名のキャンセルがあり、実際の受講者は1施設2名であった。そのため、4名の教員をグループ指導の担当に予定していたが、1名(阿部)の教員で担当した。この2名の受講者は、今年度のベーシックコースを受講しており、その内容を振り返りながら、自施設の状況と照らしながら具体的に進めることができた。現状を確実に把握してもらうために、施設で研究をすすめ支援するのに必要な問いを準備し、現状を見極めた上でディスカッションを行い、現状の課題の把握とその対応について検討した。ディスカッションにおいて、院内研究は看護師育成ラダーに位置づけられ、卒後4年目くらいのスタッフが研究に取り組むことになっている。具体的には、「なぜ卒後4年に設定するのか」、「研究に取り組ませることで何を求めるのか(目的・目標)」、「どの程度の研究を求めるのか、それはなぜか」という研究を継続教育に位置づける根拠、研究を進めるための環境として、文献検索ツールと文献の充足状況、研究のための時間の確保、研究の支援体制、研究に係る費用、研究期間、研究倫理委員会の位置づけ等、また、研究者と支援者が困っていることについて、現状を客観的に見直し、曖昧になっていることを課題として抽出した。また、施設で作成した研究の手引き書では、時間とサポートを最も必要とする研究テーマの設定までのプロセスが抜け落ち、形式重視のものであった。看護実践における具体的な状況を

例として示し研究疑問を出してもらおうと、研究に対するむずかしさと堅苦しさの意識が先行し、今までの研究に対する困難感・負担感が障壁になっていると感じられた。このような発想は、スーパーバイザーの丁寧なサポートを得ながら、自分が研究に臨む経験を積み重ねることで身につくことを説明した。そのため、研究委員である受講生を中心にグループで、プラクティスコースで研究に取り組んでみることを勧めた。今回は同施設の2名の受講生であったので、その施設の状況に即し、研究指導上の具体的な課題とその対応が検討できた。受講者は今回の研修内容はよく理解できた反面、自施設の課題がたくさん見えたと述べている。

受講生が少なかった理由は、2013年度のベーシックコースを受講した指導者が多かったこと、開催時期が職場の看護師数が最小になる時期であること、グループ学習より基礎知識偏重の考えが強いということが考えられる。これらについて、グループ学習であるが故に、他施設の状況を聞き、さまざまな意見を聞くことで、自施設の課題やその対応におけるヒントがたくさん得られることを理解してもらうことが必要であろう。また、開催時期については、次年度開始までの期間が長くなると、研修で得た学びを活用しにくくなるを考え、次年度も同時期に開催する。本年度から開始したプログラムであるため、さまざまな機会に本コースのPRを行い、申し込み締め切りを他コースより半年遅い10月とする。

看護学部看護学科 准教授 阿部 祝子

■スキルズラボ事業

1. スキルズラボ事業活動報告

1) 事業の趣旨

医療に関する科学技術の高度化、複雑化、社会のニーズの多様化に的確に対応できる力をもつ看護職の育成は、基礎教育に継続して行われる、各施設や職能団体等で実施されている種々の生涯学習に委ねられる。このような継続教育を、エビデンスに基づき体系立てたものとして提供し質の高い生涯学習の場にするためには、大学が有する教育力が必要と考える。

本事業の目的は、卒業生の看護実践力向上の支援とその効果的な教育方法の開発である。2012年度に、看護技術習得の支援、今後の企画のための情報収集を目的とし初回を開催した。2013年度からは、どの部署でも起こりうる状況について、学部や臨床現場で学習したフィジカル・アセスメントに再度着目し、自分が実践する看護をより確実にし、専門職としての成長の機会とすることを目的として開催してきている。

2) 事業プログラム

2014年度は、表1のように5月～7月の月1回、土曜日に3回開催した。学習内容は、2013年度までの内容と活用可能なシミュレータ等を吟味して決定した。受講者定員を1回20名とし、受講費用は資料及び医療消耗品費として1回2,000円とした。学習内容は、午前中に各回のテーマとなるフィジカル・アセスメントに必要な基礎知識と技術を、午後は状況設定下で統合された看護実践を習得するプログラムとした。担当者は、全ての回において、看護学部教員と京都第二赤十字病院の看護師2名で実施した。臨床の看護師を加えた理由は、教育機関と医療機関の連携による看護師の看護実践力向上をめざし、効果的な教育プログラムとファシリテーション技法の開発を行うためである。

2014年度に使用したシミュレータについて、表2に示す。本学所有のシミュレータ以外に、シミュレータ製作企業から借用・レンタルして使用した。日々、看護実践を積み重ねている受講者にとって、リアルな設定で状況を想起させ看護を展開するためには、

表1 2014年度事業プログラム

回	開催日時	テーマ	担当	場所
1	5月17日(土) 10:00-16:00	【循環機能のフィジカルアセスメントと看護】 ・心電図モニター波形の判読 ・シミュレーションシナリオ	◎マルティネス、阿部、植村、穴吹、鈴木、平井、福造、前原 久松(滋賀医大病院) 甲斐沼(京二)、藤原(京二) レールダル・メディカル・ジャパン	清優館 第1、3看護実習室
2	6月21日(土) 10:00-16:00	【呼吸機能のフィジカルアセスメントと看護】 ・気管内挿管 ・シミュレーションシナリオ	◎穴吹、阿部、中橋、マルティネス、深山、小森、島本、前原、奥野(講義のみ) 久松(滋賀医大病院) 甲斐沼(京二)、川口(京二) レールダル・メディカル・ジャパン	清優館 第1、3看護実習室
3	7月12日(土) 10:00-16:00	・人工呼吸器装着時のフィジカルアセスメントと看護 ・VAP予防口腔ケア ・人工呼吸器のしくみ ・シミュレーションシナリオ	◎平井、阿部、穴吹、マルティネス、小森、鈴木、角地、前原 藤原(京二)、田村(京二) IMI	清優館 第1、3看護実習室

表2 2014年度スキルズラボ研修で使用したシミュレータ

回	テーマ	企業	商品名	備考
1	心電図モニターの波形判読	メディカ出版	武内敦郎監 『パワーアップ版クリックで みるみる上達モニター心電図 トレーニング』CD-ROM付	購入
	循環機能のフィジカルアセスメント	レールダル・メディ カル・ジャパン社	レサシアン 携帯モニター	現代ビジネス学部から借用
SimMan3G			現代ビジネス学部から借用 レールダル・メディカル・ジャ パンからレンタル	
2	気道確保・気管内挿管の介助	レールダル・メディ カル・ジャパン社	レサシアン 携帯モニター	現代ビジネス学部から借用
	呼吸機能のフィジカルアセスメント		SimMan3G	現代ビジネス学部から借用 レールダル・メディカル・ジャ パンからレンタル
3	VAP予防の口腔ケア	日本ライトサービス	AIRSIM	日本ライトサービスから借用
	人工呼吸器装着時のフィジカルア セスメント及び管理	IMI社	METI-man レスピレータ	IMI社よりレンタル

なるべくリアルな状態状況を再現できるシミュレータが学習媒体として優れている。しかし、現存のシミュレータは救命処置、それらに関連した手技のトレーニングを主目的としたものである。そこで、対象者と看護者との会話や対象者の状態やリアルタイムにシミュレータで提示できない情報は、それぞれのブースにリード役の教員をおいて補った。

③事業実施状況

2014年度の受講者数を表3に示す。定員を1回20名、1～5期生を対象とした。各就業施設で新卒看護職員研修が実施されている時期であるため、新卒の6期生を対象外とした。しかし、卒業生の申し込みが少なく、臨地実習連携医療機関の京都第二赤十字病院

表3 2014年度受講者数

回	申込数(名)	受講者数(名)	受講者内訳(名)	
			卒業生	京二
1	20	18	7	13
2	20	19	6	14
3	22	21	8	14

の卒業2～5年目の看護職を対象受講希望者を募り、実際約20名の受講となった。

2. 評価

1) 2014年度

開催した3回の学習内容は、どの部署でも起こりうる状況におけるフィジカル・アセスメントを軸として、その基礎となる知識、技術の習得と、フィジカル・アセスメントから看護実践を導くプロセスの習得を目標とした。2013年度の反省として、時間がタイトで休憩時間が十分に取れない状況となり、内容を詰め込みすぎたことがあげられた。そこで、2014年度の研修プログラムでは、学習内容を十分に精選し、受講生の思考過程を振り返り、補う「デブリーフィング(リフレクション)」の時間を確保するタイムテーブルとした。その結果、特に午後のプログラムでは、2人1組のロールプレイ後30分のデブリーフィングを行った。また、第1回循環機能のフィジカル・アセスメントでは、初回でもあるため、

受講者と担当教員がリラックスして協力しながら学習に臨めるよう、演習導入時にアイスブレイクを取り入れ、その後、CD教材を活用した不整脈の判断プロセスの演習に入った。各回担当の教員は、基本を確実に押さえ、かつ詳細でわかりやすい教材資料を作成してくれた。このような工夫の結果、受講者は、身体を動かして学習し、収穫が大きかったと述

べている。また、本プログラムで学習する基礎知識は、かなり詳細で、基本的なレベルの内容となっており、就業施設の研修ではこのレベルまでの内容は盛り込まれておらず、受講後の自分の学習や後輩への指導で役立てられると好評を得た。図1は演習の様子の一例である。

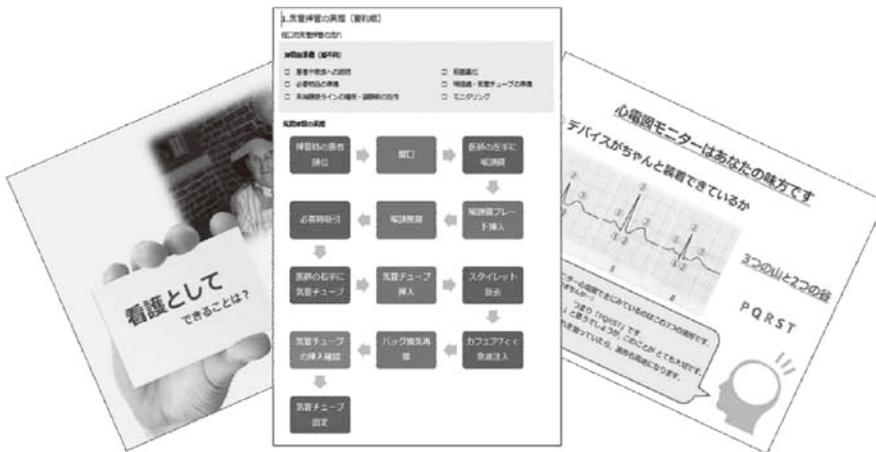


図1 2014年度教材資料の一部



図2 第1回「循環機能のフィジカル・アセスメント」シミュレーションの様子

2) その他

東京医科歯科大学大学院看護キャリアパスウェイ教育研究センター教員2名が、第3回（7月12日）スキルズラボの見学のため来学された。このセンターは臨床経験豊富で学士を有さない看護師の大学院進学を支援する目的で設立された全国共用施設である。その事業の1つである臨床判断能力・教育指導力強化のための教育プログラム開発・支援のために、シミュレーション教育を軸とされている。開始前のスタッフブリーフィングから最後のスタッフデブリーフィングまでの全プログラムを見学された。シミュレーション教育では高額なシミュレータが必要な訳ではないということを改めて感じられるとともに、ファシリテータとしての教員・臨床看護師は、大学であるからこそ可能な看護実践のEBN（Evidence Based Nursing）を強調しており、受講者の思考の言葉化に注力し、受講生の反応を確認しながら学習効果を高める雰囲気を作ろうと尽力していることに感心されていた。

2015年2月18日、東京医科大学看護学科のシミュレーションセンターを、教員3名が見学した。開設2年目であるが、2回生はシミュレーション教育の準備教育がされ、主体的な学習が進められていた。カリキュラムの軸にシミュレーション教育を据え、全教員がそのための研修を終えており、また、シミュレータ操作のスペシャリストも雇用されていた。卒業後の附属病院と連携は課題であるが、卒業後10年は教育を継続するとともにその成果の追跡が予定されていた。シミュレータ、施設、デジタルデバイスやネットワークの充実はもちろんであるが、教育に携わる人、そしてその教育ポリシーの重要性を目の当たりにした見学であった。

また、同日に高校生のキャンパス見学があり、2グループに分かれて見学した。看護志望の生徒たち

は、シミュレータの性能や先輩の学習する雰囲気に、感動の声をあげていた。

3. 今後の課題

2012年度から試行錯誤しながら、スキルズラボ事業を3年間展開した。そのプロセスで、看護実践力を養うために卒業生に対する継続教育、大学でそれを担う意義がわかってきた。受講者の受講動機はさまざまであるが、今の自分の看護実践力をより高めたいという目的は共通している。そして、受講者は学びを実践に生かす力を持っている。本事業を、受講者各人のそれらの力を引き出し、効果的な学習の場、機会となって欲しいと願っている。しかし、エビデンスに基づく体系立った継続教育プログラムは確立されていない。そこで、卒業生に質の高い生涯学習の場を提供し、専門職として看護実践力を養うためには大学の教育力と充実した教育環境が必要と考える。本事業の今後の発展にむけた課題は、以下のようなものであるが、これらに対して、研究を進めるとともに、大学との協議の上段階的に解決する必要がある。

1) 卒業生への情報発信と受講対象の拡大、そして全学的なキャリア開発事業へ

案内は、卒業生の就業施設を通して本人と看護部長に郵送した。就業施設の看護部長に送付したことについて、驚きを示した受講者もいたが、就業施設に本事業を認知してもらう機会となるであろう。しかし、受講希望者が少なく、教育連携施設である京都第二赤十字病院の卒後2～5年目の看護師の受講を募った。卒業生の参加が少なかった理由は、前年度とほぼ同じ内容のプログラムであること、卒業後1年を経過し大学から足が遠のいていること、シミュレーション教育に慣れていないこと等が考えら

れる。教育連携施設からは、貴重な研修であり、今後も受講機会が得られるよう希望されている。しかし、本事業の対象は、本学の卒業生であり、専門職としての成長を期待する目的の事業であるため、卒業生で定員を満たす工夫が必要である。2015年度は、受講対象を卒後1年目（7期生）にも拡大し、大学から足が遠のかないうちに、来学する機会を増やしてもらう。それにより、他施設の同級生との情報交換、先輩との交流やロールモデル化、教員とキャリア相談等、さまざまな形で大学で学び続けられることを知ってもらう機会を提供する。現場で対象に看護サービスを提供する上で基本を理解することが非常に重要なこと、受講後その学びを現場で十分活用できることが研究で明らかになっていることを伝え、積極的に受講を勧めたいと考えている。また、企業が開催する研修に比べ、かなりの安価で、同窓生同士でリラックスして充実した学びが得られることを強調し、受講を呼びかける。また、「Skills Lab」という卒業生にはなじみにくい名称を変更し、学び舎である京都橘大学で開催するシミュレーション（simulation）教育という意味で、「たちばなSIM」として案内する。

医療関係職種は、医療における科学技術の進歩に伴う医療の高度化、利用者のニーズの多様化、施設から在宅へとサービス提供の場の変化に応える知識・技術の習得は、基礎教育で完成するものではなく、職業人になっても学び続ける生涯学習が必須となっている。そこで、2015年度は、本学の独自の取り組みとして本事業を知ってもらい、大学選択の一つの条件にってもらうべく、オープン・キャンパスと本事業を同日に開催し、高校生とその保護者に本事業を見学してもらう。そして、大学として、卒業後も専門職としての成長を支えていることをPRする。効果的な生涯学習のために、次に述べるような

ハード、ソフト両面の環境整備が進めば、地域の看護職者も本事業の対象として、学習の機会を提供、看護の質の向上に貢献できると考えている。将来的には、本学の医療関連学部をはじめ、他学部の卒業生、地域の医療関連職種のキャリア開発、生涯学習の拠点として発展させ、チーム医療も学べるよう、本事業の運営、評価を繰り返しながら、その基礎作りしていく。

2) 看護実践力育成への大学の使命・役割を果たすためハード、ソフト両面の環境整備

卒業生がそれぞれの学習ニーズに応じて学習する機会と場を継続的に提供することは、大学として学部での基礎教育から継続する卒業生の看護実践力の育成に貢献する教育となる。現在は、看護実習室を本事業のために一時的に構成し直して使用している。学部の演習や教員の実習指導の時間を考慮し、制約された時間で集中的に準備、現状復帰作業を行っている。学部の演習や実習の指導を担当する中で、本事業展開のためのミーティング、教材作成やそのためのディスカッション時間が十分確保できない。担当する個々の教員の力量に任せられ、教員の負担や学部カリキュラムを考慮すると、年3回の開催が限度である。臨床現場で比較的経験しやすい状況を選択すると、基礎、成人、老年領域のテーマとなり、その領域の教員の負担増となり偏りが生じてしまうのが現状である。また、内容を十分吟味する時間が確保できていない。それでも充実した教材を作成して、受講者の学習ニーズに応えられているのは、個々の教員が高い教育力を有しているからである。卒業生はもちろん、学部生や院生を含め学びたい時に学べる環境を作ることが、高等教育機関が提供できる学習の場であると考えられる。学部時代にシミュレーション教育を体験しておくことで、卒業後の本事業

参加への障壁を低減できるであろう。少しでもこのような環境に近づけるため、専任教員を配し、専用教室、専用教材を確保すべく、実績を積み重ねていく。

3) 看護継続教育を充実させるための教材開発と研究の推進

3年間の本事業で使用したシミュレータは、看護学部のシミュレータをはじめ、現代ビジネス学部及びシミュレータ製作企業から無料及び有料にて借用した。現在販売されている高性能シミュレータは救急処置及びその対応チームのトレーニングが目的で作成されたものである。一般病棟や外来で体験するケースの看護アセスメントに活用するには、『帯に短し褌に長し』で、さまざまな状況設定をするにはかなりの準備が必要になる。そのため、本事業にかけられる時間的制約を考えると、オプションを追加することは、教員に過度の負担を課すことになり、現状の研修プログラムに制限せざるを得ない。どのような学習課題であれ、学び方を学び現場に適用することが目的とはいえ、臨床状況を再現した場に身をおく学習はインパクトが強く、学習効果が高まることが期待される。VAP予防口腔ケアで使用する『AIRSIM』のように、人間の口腔から気管支までを実際のCT画像をもとに忠実に作成された期間内挿管用シミュレータで、それを口腔ケアシミュレータとして応用することで手技トレーニングに最適なものとなっている。2013年度に懸念されたブラックフェイスについては、オプションのマスクを装着させて使用した。『AIRSIM』は現在では、期間内挿管だけでなく、嚥下機能を診断するためのファイバースコープの手技トレーニングにも応用されているという。このシミュレータ以外に、私たちが求める臨床における看護に特化したシミュレータが存在

しないのが現状である。医療機関は高度急性期に特化し入院期間が短縮させ、在宅医療の強化、プライマリヘルスケア・ナースプラクティショナーや高度実践看護師の養成という医療政策の中、看護を提供する場の拡大とともに看護職に求められるアセスメント力や看護実践力も高度化する。このような中で、基礎教育に継続する教育を確実に行う必要がある。その効果的な方法として、状況を再現できるシミュレーション教育が注目されている。その教育担当者の負担が少なくシミュレーション教育を担うためには、それに見合ったシミュレータの開発が必要である。そこで、さまざまな看護の場を再現できる看護に特化したシミュレータの開発にむけた取り組みを始めたい。

4) ファシリテータの養成

2012年度から受講を継続している卒業生が数名いる。この卒業生は会を重ねるごとに学びを深め、臨床での看護実践に結びつけていることが、研究により明らかになってきている。そこで、このような卒業生をファシリテータとして養成することで、本事業が、卒業生による卒業生のための看護実践力強化学習プログラムという付加価値がでてくると考える。また、ファシリテータは机上で学ぶだけでは育たず、ファシリテーションを体験しながら、自分自身のリフレクションを繰り返し、時間をかけなければ養成されないといわれる。そのため、早々にファシリテータ養成に取り組みたいと考えている。現在は研究協力として、ファシリテータとして臨床看護師の参画を得ているが、勤務や所属施設の意向に影響を受けないハイレベルなファシリテータを卒業生に担ってもらうことで、その卒業生自身が現場のさまざまな状況（看護実践、新人や後輩指導等）において、その力の発揮につながり、本学卒業生の価値

が高まると考える。卒業生のファシリテータ養成プログラムの骨格を作っていきたい。

5) 研修会開催費用等の獲得

2012年度は試行のため無料、2013年度は1人1回2,000円を受講料として徴収した。卒業生を対象とすることから本事業のほとんどの費用は大学で予算化するとともに、日本学術振興会科学研究費助成事業による研究費を用いて開催してきた。2013年度からは担当教員に、1人1回あたり3,000円の手当がつくことになり、ハードな準備・実施を担う教員の細やかな糧となった。本事業の効果的な推進のために研究は欠かせず、その外部資金を獲得することは教員の使命でもあるが、今後本事業の拡大発展のためには、教職員の研修や実際の参加を進め、その必要性、重要性を体感してもらわなければならないと考えている。そのための費用と円滑な事業運営のための予算措置が必要である。また、現在販売されている書籍で賄える内容以上の担当教員の知識・知恵、技術、経験の結晶と言える教材資料について、2014年度はグラフィックデザインについて予算化され実

施された。2015年度はそれに加えて本文を作成してテキストの完成が予算化され、その作業を進める。テキストが完成されれば、毎回の資料作成の負担が軽減されるであろう。受講者は、受講後にこれらの資料を参照する機会が多いという。そのように価値高い教材資料をオリジナルテキストとして編纂し、受講時に購入してもらうようにすることで、本事業の価値がさらに向上すると考えている。

6) 研究の推進と成果の公表

2013年度に獲得した学術振興会研究助成金の基盤研究Cと挑戦的萌芽研究が2015年度で終了する。(詳細は後述) 毎年、その成果は関連学会等で発表してきているが、3年間の研究成果をまとめ、公表するとともに、その成果を本事業に組み込み、より効果的で効率的なプログラムに改善していく。また、3年間の研究成果をもとに、更なる研究に取り組むために外部資金の獲得をめざす。

看護学部看護学科 准教授 阿部 祝子

■通信教育課程看護学コース学修レポート作成サポート講座

1. 事業の趣旨とプログラム

2012年度から開設された健康科学部心理学科通信教育課程の科目等履修制度の看護学コースは、3年制の看護専門学校や短期大学を卒業した看護職者を対象に、大学評価・学位授与機構の学位授与制度を利用して、学士（看護学）の取得に対応した科目を編成したコースである。このコースを受講し必要単位を取得後、学位授与申請のために大学評価・学位授与機構に提出する学修成果レポートの作成を支援するために、2013年度から開始した。レポートテーマはある程度決めていると受講者のレディネスを設定し、STEP1は基本的知識の学習、STEP2は個別指導を2回行うプログラムを企画した。しかし、受講者に求めるレポートのレベル、具体的な指導内容、またその成果（学士号の取得状況）等、個別指導を担当した教員の不全感・負担感が強く、プログラムを見直すことになった。2014年度のプログラムは、表1のように、レポート作成の前段階のレポートテーマの設定を焦点として、2日間のプログラムでサポートすることにした。その際、STEP1のみの受講、STEP1とSTEP2をあわせた受講を選択できるようにした。ただし、STEP2のみの受講は不可とした。

表1 学修成果レポート作成サポート講座研修プログラム

STEP1：《テーマを絞る》

日程：2014年5月20日（火）			
時間	テーマ	講師	受講料
10:45～12:15	論理的思考について	梅本 裕	15,000円
13:00～16:15	レポート作成にむけたグループ指導（演習） （レポートのテーマ設定の講義：阿部を含む）	阿部祝子、梶谷佳子、 片山由加里、植村由美子	

STEP2：《レポートのアウトラインの作成》

日程：2013年6月17日（火）			
時間	テーマ	講師	受講料
13:00～16:15	レポート作成にむけたグループ指導（演習）	阿部祝子、梶谷佳子、 片山由加里、植村由美子	15,000円

2. 事業実施状況

受講者は、STEP1が25名、STEP2は22名の申し込みがあり、実際の参加人数はSTEP1が25名、STEP2は19名であった。科目履修生としてe-learningのみの学習であり、STEP1からグループワークとしたことにより、受講者同志のネットワークの形成の機会となった。また、図書館を年度内利用可能であったため、STEP1で、STEP1からSTEP2の期間に、あるいはSTEP2終了後レポート提出までに文献検索に訪れた受講者もいた。

3. 事業の評価と課題

2014年度は、2013年度の課題を踏まえ、大幅にプログラムを修正して開催した。表2は、受講者のアンケート調査の結果である。

受講者は、STEP1では、レポートテーマの設定やレポートの書き方がわからない、一人では自信がないから参考にしたいなどの理由で受講している。受講することで文章の書き方やテーマ設定の考え方を大まかではあるがとらえられたと回答している。STEP2では、STEP1に引き続きの受講で、さらにレポートの進め方を学ぶ目的での受講が多く、特徴的なのは仲間との情報共有や他の人の意見を聞

表1 学修成果レポート作成サポート講座研修プログラム

問い	STEP1		STEP2	
	回答	回答数	回答	回答数
1.本日の研修を受講しようと思われた動機・目的	レポート作成方法、進め方が全くわからない、自信がない	21	レポートの進め方を学びたい	10
	レポート作成の参考		3	情報共有する、他の人の意見を聞きたい
	仲間づくり	1	STEP1だけではわからないから	5
			STEP1と2がセットであることがよい	3
			レポート作成のきっかけを作る	2
			具体的な指導を受けたい	1
2.本日の研修で学んだこと、考えたこと	文章を書くコツ、論理的思考	13	図書館を利用する	1
	テーマの決め方	15	テーマ設定の考え方	10
	グループメンバーとの意見交換	5	レポートのアウトライン	8
	教員のアドバイス	2	仲間がいる、仲間の意見が聞けた	5
			レポートの書き方	3
			看護の視点が大事	3
3.本講義を受講された感想	考え方がわかった、広がった	8	文献検索の方法	1
	グループワークが楽しかった、仲間がいる	4	考え方が広がった	5
	講座終了後のフォロー・個別指導を希望	3	仲間がいること	9
	教員の準備、対応のよさ	3	テーマ設定の考え方がわかった	4
	有意義だった	3	レポートの書き方がわかった	3
	テーマが大まかにとらえられた	2	教員の配慮・指導がよい	3
	むずかしい	1	個人指導・フォロー希望	2
秋の開催を望む	1	STEP2がよかった	1	

※回答は自由記載である。

きたいという目的であった。研修後は、テーマ設定やレポートのアウトラインの学びとともに、仲間がいて意見が聞けたというものが多かった。これは、STEP1からグループ学習とした効果と考えられる。e-learning中は個人学習であり、一人でレポート作成するには、手立てがほしいというものが多く、STEP1でのグループ学習での学びが、STEP2の受講動機に反映していると考えられる。一方、講座終了後の個人指導やフォローの希望が少数あったが、講座受講後の感想を見ると、多くの受講者が本講座の目的の学習はできていると判断できる。そのため、本来学位授与機構への学習成果レポートは個人が作成するものであること、レポート作成までの添削に準ずる指導は、教員の成果への負担感につながることなどを鑑み、本年度のサポートプログラムの提供が、現段階ではベターであると考えられる。

2014年度の看護学コースの科目等履修生として約70名入学しており、2015年度の本講座の受講者は40名ほどになると予測される。そのため、本学部教員の業務負担増が懸念され、本年度と同様のプログラムを提供しうるマンパワーの確保が、課題である。本講座は通信教育課程に付随する事業であり、通信教育課内に専任スタッフの配置が必要と考えられる。ただし、専門学校や短期大学卒業の看護職者が多い現状の中、学士取得後さらなる学習機会として、受講生の学習の芽を摘むことなく、育てる継続教育になるという認識において、看護学部教員が関わる意義は大きいと考えている。

看護学部看護学科 准教授 阿部 祝子

研究活動

■研究活動 40

研究活動

表1のように、本事業に関連して研究を行っている。2014年度は、2013年度から日本学術振興会研究費助成事業の挑戦的萌芽研究と基盤研究Cについて

継続助成を受け、受講者の受講後のインタビュー調査、シミュレータのレンタル、ファシリテータの依頼等を行い、研究を進めている。また、2014年度ス

表1 2014年度の研究活動(研究資金の獲得)

研究資金の獲得状況

日本学術振興会科学研究費助成事業	挑戦的萌芽研究 (2013-2015年度)	テーマ	卒後看護師に対するシミュレーション教育プログラムと評価システムの開発
		研究者	穴吹浩子(代表者), マルティネス真喜子, 阿部祝子, 前原澄子
	基盤研究C (2013-2015年度)	テーマ	卒後看護師へのシミュレーション教育における効果的なファシリテーション技法の開発
		研究者	マルティネス真喜子(代表者), 穴吹浩子, 阿部祝子, 前原澄子
本学教育開発支援助成費	テーマ	看護実践力の育成・強化のための看護フィジカルアセスメントシミュレータの開発(1)	
	研究者	阿部祝子(代表者), 穴吹浩子, マルティネス真喜子, 平井亮	

研究成果の発表状況

第2回日本シミュレーション医療教育学会学術大会	テーマ	シミュレーション教育における 臨床看護師と大学教員の ファシリテーションの特徴
	研究者	マルティネス真喜子, 阿部祝子, 穴吹浩子, 平井亮, 久松志保, 前原澄子
	テーマ	シミュレーション教育前後における受講生の看護実践姿勢の変化
	研究者	穴吹浩子, 阿部祝子, マルティネス真喜子, 平井亮, 久松志保, 前原澄子
	テーマ	看護師の継続教育で使用するシミュレーターへの課題
	研究者	平井亮, 阿部祝子, 穴吹浩子, マルティネス真喜子, 久松志保, 前原澄子
第34回日本看護科学学会学術集会交流集会	テーマ	卒業生を対象とした看護実践力の向上をめざすシミュレーション教育
	研究者	阿部祝子, 穴吹浩子, マルティネス真喜子, 平井亮, 久松志保, 前原澄子
第25回日本医学看護学教育学会学術大会	テーマ	看護師対象のシミュレーション教育における ファシリテーションの実態
	研究者	マルティネス真喜子, 阿部祝子, 穴吹浩子, 平井亮, 久松志保, 前原澄子
日本シミュレーション医療教育学会誌(投稿中)	テーマ	臨床看護師を対象としたシミュレーション教育におけるファシリテーションの課題
	研究者	マルティネス真喜子, 阿部祝子, 穴吹浩子, 平井亮, 久松志保, 前原澄子

キルズラボ事業評価の中間報告として、表2のように、第2回日本シミュレーション医療教育学会学術大会、第34回日本看護科学学会交流集会、第25回日本医学看護学教育学会学術学会にて発表し、多くの参加者との活発な議論がなされた。また、誌上発表として、日本シミュレーション医療教育学会誌への投稿を予定している。

2014年度から助成を受けている挑戦的萌芽研究と基盤研究Cの研究結果について紹介する。

挑戦的萌芽研究「卒後看護師に対するシミュレーション教育プログラムと評価システムの開発」では、プログラム受講後半年後の学びの活用と看護実践の変化について、研究協力を得た受講者のフォーカスインタビューを実施した。研修受講の動機は、経験が少ないテーマを実践的に学ぶ、曖昧なエビデンスを学び直す、自分の看護実践を振り返るためであった。その背景には、図1のように、経験年数に関係なく教えてもらう機会の減少があった。研修受講後

半年の学びは、看護実践後のリフレクションによる知識の定着、自己の課題の明確化があった。また、半年経過後研修での学びを振り返ると、他者とリフレクションすることで、自分は間違っていなかったという安心感を得た研修であることがわかった。研修後の看護実践において、アセスメントの方向をいろいろ考えた上で実践できている、急変時も冷静に考えることができていて、後輩にも自信をもってアドバイスできる、全体が見られるようになってきた等、受講者自身が変化を述べている。

基盤研究C「卒後看護師へのシミュレーションにおける効果的なファシリテーション技法の開発」では、撮影した動画を分析して、シミュレーション後のデブリーフィング⁶におけるファシリテーションの実態を分析した。ファシリテータは、デブリーフィングガイドをもとに、学習目標に向けてデブリーフィングのプロセスを進め、受講者の学習状況に応じて、ヒントを含めて発問を投げかけ、発言を引き

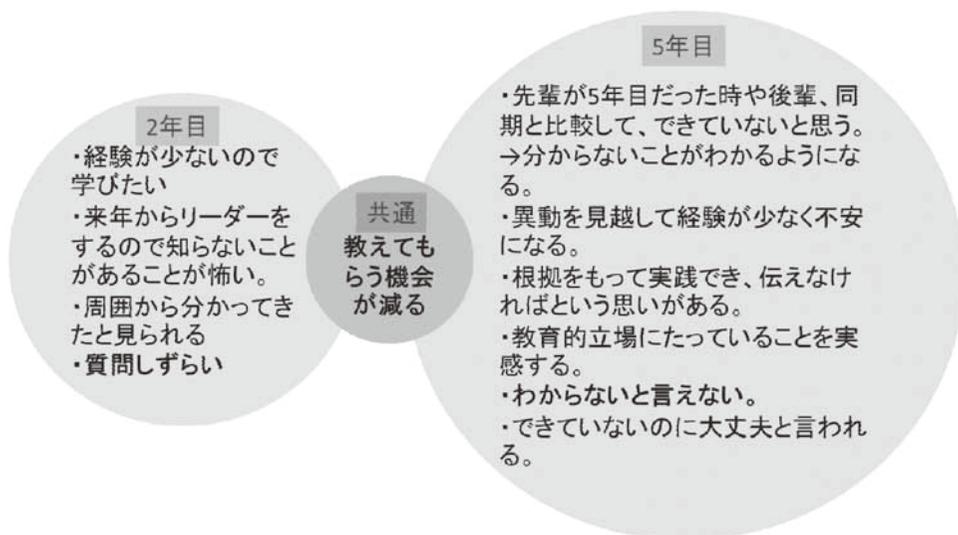


図1 受講者の研修参加の背景



図2 シミュレーション後のデブリーフィングの様子

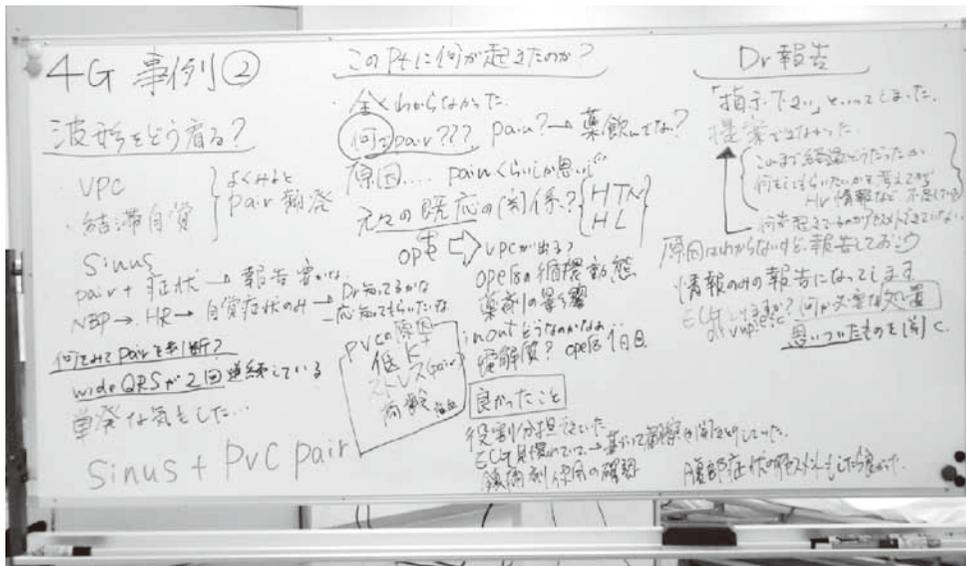


図3 デブリーフィング後の板書内容

出し、受講者の行動や思考の想起、日常看護実践の想起を促し、振り返りの機会を提供するといった、ファシリテータとしてのパフォーマンスは概ねなされていた。しかし、デブリーフィングガイドをもとにファシリテーション内容を見ると、デブリーフィングの重要ポイントが抜けていることがあった。その理由は、30分という時間制限や受講者から期待する反応が返らなかった時の焦りなどによるものであった。事前にファシリテーションガイドの十分な吟味と理解が必要と考えられる。図2はシミュレーション後のデブリーフィングの様子、図3はデブリーフィングの成果としての板書である。

本学の教育開発支援助成費を得ている、看護実践力の育成・強化のための看護アセスメントシミュレー

タの開発は、看護アセスメントの学習において、現状のシミュレータで不足している機能を追加した高性能シミュレータの開発にむけ情報収集を行った。シンポジウムに参加しその講師や参加者との情報交換、ロボティクスの研究者、機械工学の研究者、シミュレータ製作企業との情報交換、学会誌等から情報収集を行った。シミュレーション教育に携わる看護教育者は、このようなシミュレータの必要性は認識されていた。しかし、工学の観点からは研究対象にはなりえないであろうとの示唆があった。工学研究というより、センサーや材質等を製作している企業との連携を今後は考える必要がある。

看護学部看護学科 准教授 阿部 祝子

資料

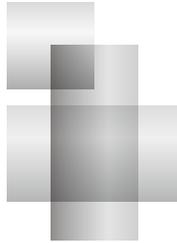
2014年度

京都橋大学看護教育研修センター 看護キャリア開発事業

「看護研究支援」研修

ごあんない

研究の「技」を学び、より発展させる



担当事務：間い合わせ

京都橋大学看護教育研修センター
看護キャリア開発事業担当

TEL: 075-574-4235 FAX: 075-574-4236
E-mail: cpdn@tachibana-u.ac.jp
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34
※9:00~17:00(土・日・祝日は除く)

看護職各位

京都橋大学看護キャリア開発事業—看護研究支援—のご案内

本学では、2012年度から看護キャリア開発事業を始めました。2年間の「看護研究支援」で、研究の基礎を学ぶ「ペーシックコース」に個人で受講された方が89名、講師派遣の形式で受講された方から施設25名、自分の研究テーマに沿って研究を学ぶ「ブラクティクスコース」に個人で受講された方が1名おられました。

皆様は、各所属部署で研究担当となり、試行錯誤しながら何とか研究を進めてまとめ、発表するところまでには至っていないのも事実ではないでしょうか。自分(達)の研究テーマにピッタリというアプローチを何度も経験されていらっしゃるでしょうか。しかし、その成果に満足するということやプロ세스を何度も繰り返していったと思います。

研究は、いくら机上で学習しても身につけることはできません。研究をするためには、それなりの「技」が必要です。研究者はその「技」を持っています。また、その「技」は、研究の進捗により応用され創造されていきます。自分(達)のテーマに沿って、研究の「技」を学び、現在より満足が出来る研究を進めてみませんか。

そこで、2012年度、2013年度に「ペーシックコース」を受講された方は「ブラクティクスコース」で、「ブラクティクスコース」を受講された方は「アドハンスコース」で、各自のテーマに沿って研究プロセスで使う「技」を学びましょう。また、次年度研究を担当する方は、「ペーシックコース」を受講して準備を進め、担当になったら、研究テーマの選択・見極めから一歩ずつ、研究者の手ほどきを受けて進めるという計画で学びましょう。研究力は、すぐに養われるものではありません。本事業は、現在より少し時間をかけて計画的に系統的に学習するプログラムとなっております。また、2014年度から、各施設や部署で研究の指導・支援を担当される方のために「院内研究指導者コース」を開催いたします。研究の基礎を再確認して、指導・支援の糸口を見つけるプログラムです。各プログラムの詳細や参加費等は、次ページ以降をご覧ください。皆様の受講を、心よりお待ちしております。

京都橋大学看護教育研修センター

ベージック
コース

研修のねらい 研究を行う準備段階で、看護研究の基礎を学び、実際の研究の土台ととする研修プログラムです。
研修の中心者 本学での個人受講または施設への講師派遣が可能です。学習項目を選択して受講することも可能です。
研修の対象 個人受講または施設様による申し込みが可能です。
研修の申込 個人受講または施設様による申し込みが可能です。

回数	開催時期	開催時間	学習項目	学習内容	形態	担当	大学別		備考
							受講料	定員	
1	5月13日(火)	14:45 ~ 16:15	1) 現場における研究 2) 研究の進め方	①研究の意義 ②研究プロセスと倫理 ③研究論文の構成と種類 ④研究の進め方 ⑤研究デザインの種類と特徴	講義	1人	30,000円 (施設受取)		
2	6月10日(火)	14:45 ~ 16:15	2) 研究テーマの選定	①研究テーマの選定 ②文献検索の方法 ③文献検索のツール	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
3	7月8日(火)	14:45 ~ 16:15	3) 文献検索	①文献検索の意義 ②文献検索の方法 ③文献検索のツール	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
4	7月22日(火)	14:45 ~ 16:15	4) 文献検索	①文献検索の意義 ②文献検索の方法 ③文献検索のツール	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
5	8月5日(火)	14:45 ~ 16:15	5) 文献検索	①文献検索の意義 ②文献検索の方法 ③文献検索のツール	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
6	9月9日(火)	14:45 ~ 16:15	6) 研究倫理と研究計画書の作成	①研究倫理と研究計画書の意義 ②研究倫理と研究計画書の作成 ③研究計画書の作成	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
7	10月7日(火)	14:45 ~ 16:15	7) 発表の準備	①発表の準備 ②発表の準備 ③発表の準備	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備

ブライテイス
コース

研修のねらい 個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、院内発表を行うレベルの研修プログラムです。
研修の対象 本学での個人受講または施設への講師派遣が可能です。
研修の申込 個人受講または施設様による申し込みが可能です。

回数	開催時期	開催時間	学習項目	学習内容	形態	担当	大学別		備考
							受講料	定員	
1	5月13日(火)	14:45 ~ 16:15	1) 研究テーマの選定	①研究テーマの選定 ②研究プロセスと倫理 ③研究論文の構成と種類 ④研究の進め方 ⑤研究デザインの種類と特徴	講義	1人	30,000円 (施設受取)		
2	6月10日(火)	14:45 ~ 16:15	2) 文献検索	①文献検索の意義 ②文献検索の方法 ③文献検索のツール	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
3	7月8日(火)	14:45 ~ 16:15	3) 研究デザイン	①研究デザインの意義 ②研究デザインの種類と特徴 ③研究デザインの作成	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
4	7月22日(火)	14:45 ~ 16:15	4) 研究倫理と研究計画書の作成	①研究倫理と研究計画書の意義 ②研究倫理と研究計画書の作成 ③研究計画書の作成	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
5	8月5日(火)	14:45 ~ 16:15	5) 発表の準備	①発表の準備 ②発表の準備 ③発表の準備	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
6	9月9日(火)	14:45 ~ 16:15	6) 発表の準備	①発表の準備 ②発表の準備 ③発表の準備	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
7	10月7日(火)	14:45 ~ 16:15	7) 発表の準備	①発表の準備 ②発表の準備 ③発表の準備	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備

アドバンス
コース

研修のねらい 個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、外部の研究学会で発表するレベルの研修プログラムです。
研修の対象 本学での個人受講または施設への講師派遣が可能です。
研修の申込 個人受講または施設様による申し込みが可能です。

回数	開催時期	開催時間	学習項目	学習内容	形態	担当	大学別		備考
							受講料	定員	
1	5月13日(火)	14:45 ~ 16:15	1) 研究テーマの選定	①研究テーマの選定 ②研究プロセスと倫理 ③研究論文の構成と種類 ④研究の進め方 ⑤研究デザインの種類と特徴	講義	1人	30,000円 (施設受取)		
2	6月10日(火)	14:45 ~ 16:15	2) 文献検索	①文献検索の意義 ②文献検索の方法 ③文献検索のツール	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
3	7月8日(火)	14:45 ~ 16:15	3) 研究デザイン	①研究デザインの意義 ②研究デザインの種類と特徴 ③研究デザインの作成	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
4	7月22日(火)	14:45 ~ 16:15	4) 研究倫理と研究計画書の作成	①研究倫理と研究計画書の意義 ②研究倫理と研究計画書の作成 ③研究計画書の作成	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
5	8月5日(火)	14:45 ~ 16:15	5) 発表の準備	①発表の準備 ②発表の準備 ③発表の準備	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
6	9月9日(火)	14:45 ~ 16:15	6) 発表の準備	①発表の準備 ②発表の準備 ③発表の準備	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備
7	10月7日(火)	14:45 ~ 16:15	7) 発表の準備	①発表の準備 ②発表の準備 ③発表の準備	講義	1人	30,000円 (施設受取)		①文献検索、②研究デザイン、③発表の準備、④施設受取の準備、⑤施設受取の準備

院内研究
指導者コース

研修のねらい 院内研究において、各部署の円滑な研究活動をリード、サポートするための研修プログラムです。
研修の対象 院内研究の指導者として参加される方が対象です。
研修の申込 本学での個人受講となります。個人申込み用紙にてお申し込みください。

回数	開催時期	開催時間	学習項目	学習内容	形態	担当	大学別		備考
							受講料	定員	
1	2月17日(火)	10:45 ~ 16:15	1) 院内プロセスにおけるポイント	①院内プロセスの概要 ②院内プロセスの役割 ③院内プロセスの活用 ④院内プロセスの改善	講義	10名			・グループワークを主とする研修です。 ・受講者自身が主体的に参加し学習されることを望みます。
2	5月13日(火)	14:45 ~ 16:15	2) 院内プロセスの活用	①院内プロセスの活用 ②院内プロセスの活用 ③院内プロセスの活用	講義	10名			

お申込み
に関して

・受講申込は、個人でも施設様でも可能です。
 ・施設様の場合には講師の施設派遣も可能です。ただし受講料とは別に交通費として実費相当額（大学から施設まで）の交通費。タクシー利用の場合は往復タクシー料金等）をお支払いいただきます。
 なお、施設への講師派遣の場合、別途契約書を締結させていただきます。
 原則として、納入された受講料金はお返しいたしません。
 ・申込月曜に必要事項をご記入の上、郵送、Fax、E-mailにて担当事務宛へお送りください。
 ・受講料金は、受講申込後、担当事務より支払方法をご案内いたします。
 ・2014年度の受講申込の締め切りは、**4月18日(金)**必着です。



京都市山科区大宅山田町 34
京都橋大学看護学部

卒業生の皆様

京都橋大学看護キャリア開発事業-Skills Lab(スキルズラボ)研修のご案内

京都橋大学看護キャリア開発事業-Skills Lab(スキルズラボ)研修のご案内

本学では、2012年度から看護キャリア開発事業を開始し、卒業生を対象とした「Skills Lab」オンラインセッション教育を開催しています。看護経験を積み重ねるとともに部署で果たした役割や責任も変化し、学びも変わってきています。スキルズラボ研修は、参加された卒業生にとっても知識や技術の基本を確認し、各目的看護経験を見つめ直す機会となっています。また、先輩や後輩の姿から学んだり、情報交換したり、教員に相談したりする場にもなっています。

本学の「Skills Lab」研修の特徴は、単独の技術(Skill)を習得するのではなく、看護の知識・技術・態度を統合し、対象に適した看護を提供できる「看護実践力の強化・向上を目的」としていることです。「看護実践力」は、在学中を含め卒業後の継続した看護経験や学習により養われるものです。卒業生の「看護実践力の強化・向上のために学習機会を提供すること」は、大学の使命です。

2014年度で第3回目の開催となりますが、研修プログラムは第1回、第2回とほぼ同様です。しかし、皆さんが積み重ねた看護経験により、同じプログラムであっても受講後の学びの内容が変わります。所属施設でも、経験年数毎の研修など学習の機会が提供されていますが、本学の「Skills Lab」研修は、大学という教育の専門機関としての教育力を生かした継続教育です。受講される方の技術や経験の多寡に関わらず、看護職としてさまざまな状況・場面に応用できる基本的な知識・技術・態度をしっかりと学ぶことができます。このような意図で、2014年度は3日間のプログラムを企画しました。前回受講された方も、継続して受講し学習されることをおすすめします。

担当教員は、受講した卒業生が《人によりそう》看護をめざして日々努力され、学習されている姿に励まされ、研修プログラム内容や指導方法の開発のために、受講される方の協力を得て研究に取り組んでいます。2014年度も皆さんの協力を得ながら、研究を継続し成果を発信していきたいと考えています。所属施設で提供される研修にプラスして、卒業した学び舎で学んでみませんか、皆様の参加を、心よりお待ちしております。

1.研修内容、開催日時

回	研修内容	開催日時
1	*循環機能のフィジカルアセスメントと看護	5月17日(土) 10:00-16:00
2	*呼吸機能のフィジカルアセスメントと看護	6月21日(土) 10:00-16:00
3	*人工呼吸器装着時のフィジカルアセスメントと看護	7月12日(土) 10:00-16:00

2.参加費 1人1回2,000円(資料、医療消耗品代)

3.参加定員 卒業生 1回20名(定員を超えた場合は抽選となります。)

4.申込期間・申込方法

申込期間：2014年4月18日(金)必着

申込方法：E-mail、Fax、または郵送

・別紙「[スキルズラボ]Skills Lab)研修2014」申込用紙に必要事項をご記入の上、E-mail、Fax、または郵送にて、下記宛お申し込みください。

・受講料金は、受講申込後担当事務より支払い方法をご案内いたします。

申し込み、問い合わせ先

京都橋大学 看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

E-mail : opdn@tachibana-u.ac.jp

TEL : 075-574-4235 FAX : 075-574-4236

※ 参加証受領後欠席する場合は、必ず前日まで上記宛にご連絡ください。

高機能なスキルがなくても活躍するから、実践的で、楽しく、フィジカルアセスメントを学ぼう。



基本を詳しく学べるし、スキルセッションを使って、イメージしやすいし、自分の行動を振り返り、実践に生かせるよ。

先輩や後輩、グループと一緒に考えたり、教えたり、楽しみながら、学びたいです！

2014年度看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座

京都府立学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修生として修了された皆さんが、文学評価・学位授与機構に学位申請をされる際に学修成果レポートの提出が必要ですが、学修レポート作成に付いて、何を書こうか、どのように進めるかなど不安をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。そのような方々をサポートする講座を開催いたします。この講座では、学修レポート作成におけるスタターになるとともに、グループでの議論形式で面白いと思いますので、学位申請という趣旨を共にする人同志が互いに支えあうネットワーク作りの機会となります。ぜひ、この講座を受けて学修レポート作成に取り組んでください。

○**受講対象者**：本学通信教育課程の科目等履修生「看護学コース」を修了または修了見込の方
2014年10月期申請または2015年4月期申請を予定されている方

※現在履修中の方は申請時期を検討の上、学修計画を立て、科目履修および学修成果レポートの作成の準備を進めてください。

《プログラム》

STEP1：2014年5月20日（火）《テーマを絞る》		
10:45～12:15	論理的思考について（講義）	講師：京都府立学健康科学部学術理事 長
13:00～16:15 (休憩15分含む)	レポート作成にむけたグループ指導（演習）	講師：京都府立学健康科学部学術理事 長
STEP2：2014年6月17日（火）《レポートのアウトラインの作成》		
13:00～16:15 (休憩15分含む)	レポート作成にむけたグループ指導（演習）	講師：京都府立学健康科学部学術理事 長
*受講前に学位授与申請案内『新しい学士への途』を取り寄せ、必ず確認しておいてください。レポートの形式等について記載されています。		

○開催場所はいずれも本学キャンパス（京都市山科区）です。
○学位申請に関する手続き等につきましては大学評価・学位授与機構までお問い合わせください。

【**受講料**】 STEP1のみ : 15,000円
STEP1 + STEP2 : 30,000円

*STEP2のみの申込みはできません。

*一旦納入された受講料はお返しできませんので、あらかじめご了承ください。

【お申し込み・お問い合わせ】

申込期間：2014年3月3日（月）～2014年4月18日（金）※期間内必着

申込方法：別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、E-mail、FAX、または郵送にて下記までお申し込みください。申込受付後に振込用紙を郵送いたします。

京都府立学健康科学部学術評価センター
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34
E-mail : cpdn@tachibana.u.ac.jp
TEL&FAX: 075-574-1433 ※9:00～17:00（土・日・祝日は除く）

京都橘大学看護教育研修センター 年報2014

発行：2015年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX. 075-574-4133

E-mail : cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL : <http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/>

